

大崎地方合併協議会
第2回地域医療検討小委員会

日時：平成15年9月27日(土)
午後3時~
場所：宮城県古川合同庁舎1階大会議室

次 第

1. 開 会
2. 開会挨拶
3. 協議事項
 - (1) 1市6町の地域医療の現状 について 別紙1
 - (2) 4自治体病院及び1診療所全体の経営及び運営状況について
. 別紙2
 - (3) 住民が求める地域医療について(意見交換)
 - (4) 次回会議の開催について 別紙3
 - (5) その他
4. 閉会挨拶
5. 閉 会

大崎地方 1 市 6 町

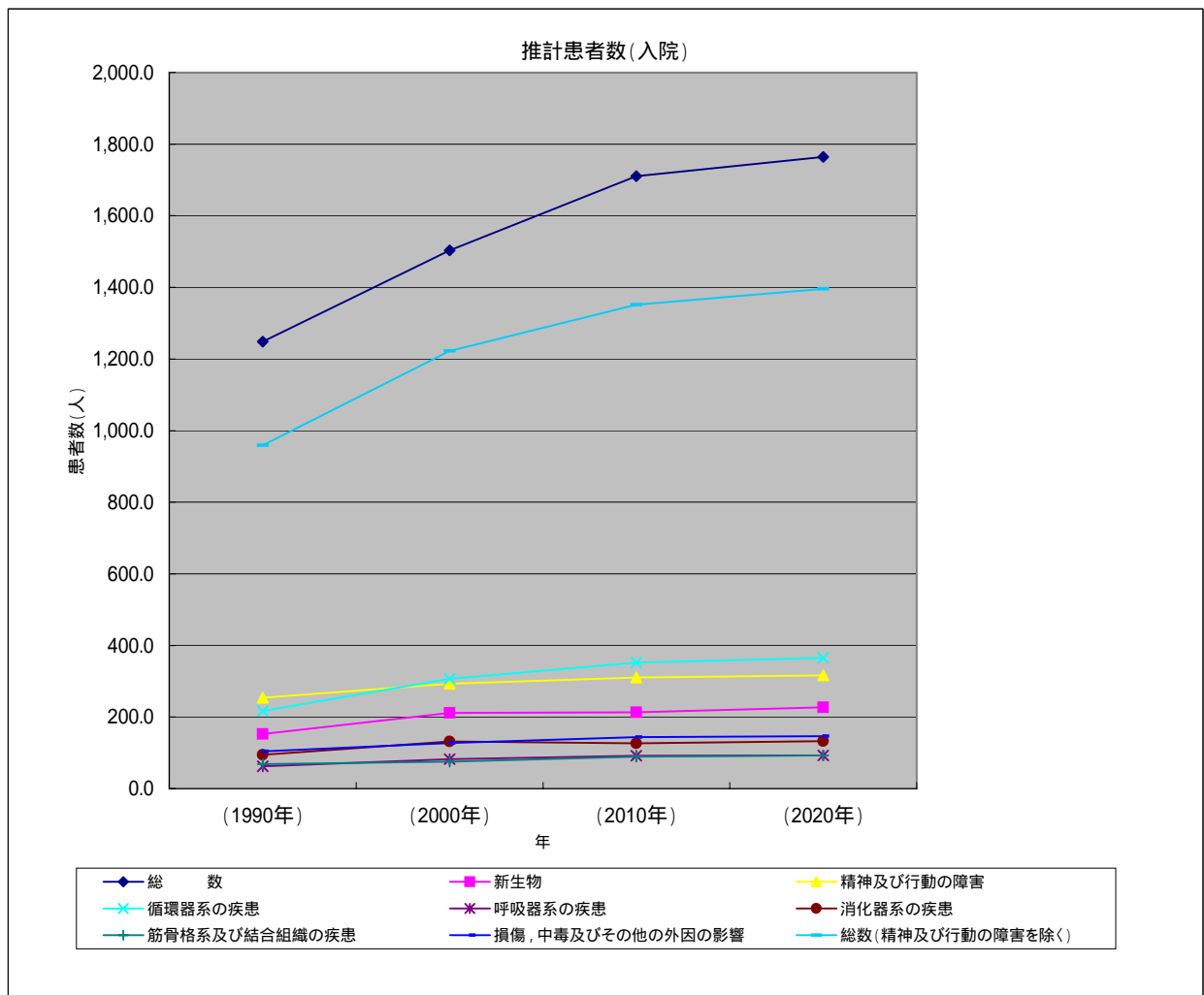
医療受療動向【追加資料】

1 . 人口将来推計と入院患者予測	1
2 . 市町村別入院患者依存状況	10
3 . 市町村別外来患者依存状況	11

1. 人口の将来推計と入院患者の将来予測

1市6町推計入院患者数

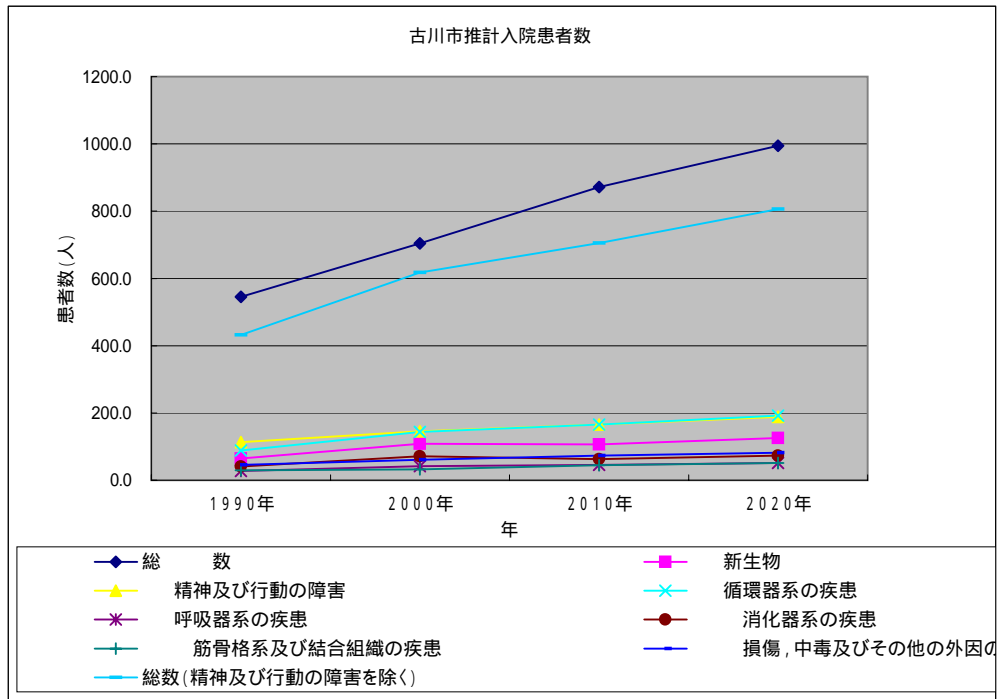
傷病大分類	平成2年 (1990年)	12年 (2000年)	22年 (2010年)	32年 (2020年)
総数	1,248.7	1,503.4	1,710.8	1,763.8
感染症及び寄生虫症	35.8	50.2	51.7	54.2
新生物	152.5	211.5	213.0	227.1
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6.3	7.3	9.0	9.4
内分泌、栄養及び代謝疾患	38.4	47.8	55.1	58.3
精神及び行動の障害	254.1	292.8	310.3	316.3
神経系の疾患	50.3	59.1	59.2	61.0
眼及び付属器の疾患	13.9	17.2	19.9	20.8
耳及び乳様突起の疾患	3.3	3.3	3.7	3.5
循環器系の疾患	216.9	307.0	351.8	365.1
呼吸器系の疾患	62.3	82.7	91.5	92.5
消化器系の疾患	94.2	131.9	126.3	132.7
皮膚及び皮下組織の疾患	8.5	11.4	12.7	13.0
筋骨格系及び結合組織の疾患	68.2	75.3	89.6	92.4
尿路器系の疾患	49.1	66.1	69.7	72.9
妊娠、分娩及び産じょく	37.3	18.2	43.8	38.7
周産期に発生した病態	7.7	6.5	6.6	6.7
先天奇形、変形及び染色体異常	11.4	10.7	10.2	10.0
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.1	25.6	27.6	28.6
損傷、中毒及びその他の外因の影響	104.0	127.5	144.1	146.2
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	14.1	12.9	17.5	16.5
総数(精神及び行動の障害を除く)	959	1,222	1,351	1,396



受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率
推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

古川市推計入院患者数

傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総 数	545.7	703.8	871.4	994.8
感染症及び寄生虫症	15.3	26.0	25.7	29.8
新生物	64.8	108.7	106.2	125.2
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.7	2.9	4.4	5.2
内分泌、栄養及び代謝疾患	16.2	20.7	27.6	32.5
精神及び行動の障害	113.6	145.5	165.8	188.4
神経系の疾患	22.8	30.5	31.1	35.5
眼及び付属器の疾患	5.8	7.7	9.8	11.4
耳及び乳様突起の疾患	1.5	1.6	1.9	2.1
循環器系の疾患	88.9	143.4	166.0	192.3
呼吸器系の疾患	27.3	41.7	45.6	51.0
消化器系の疾患	41.0	71.3	63.1	73.7
皮膚及び皮下組織の疾患	3.6	5.6	6.1	7.0
筋骨格系及び結合組織の疾患	29.5	32.2	45.0	51.7
泌尿器系の疾患	21.0	33.1	34.9	40.4
妊娠、分娩及び産じょく	19.9	4.0	30.3	28.7
周産期に発生した病態	4.2	3.9	4.6	4.9
先天奇形、変形及び染色体異常	5.7	6.2	6.6	7.0
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8.6	12.6	13.7	15.8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	45.6	60.8	72.8	82.2
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	7.2	4.8	9.7	9.9
総数(精神及び行動の障害を除く)	432.0	617.6	705.5	806.2

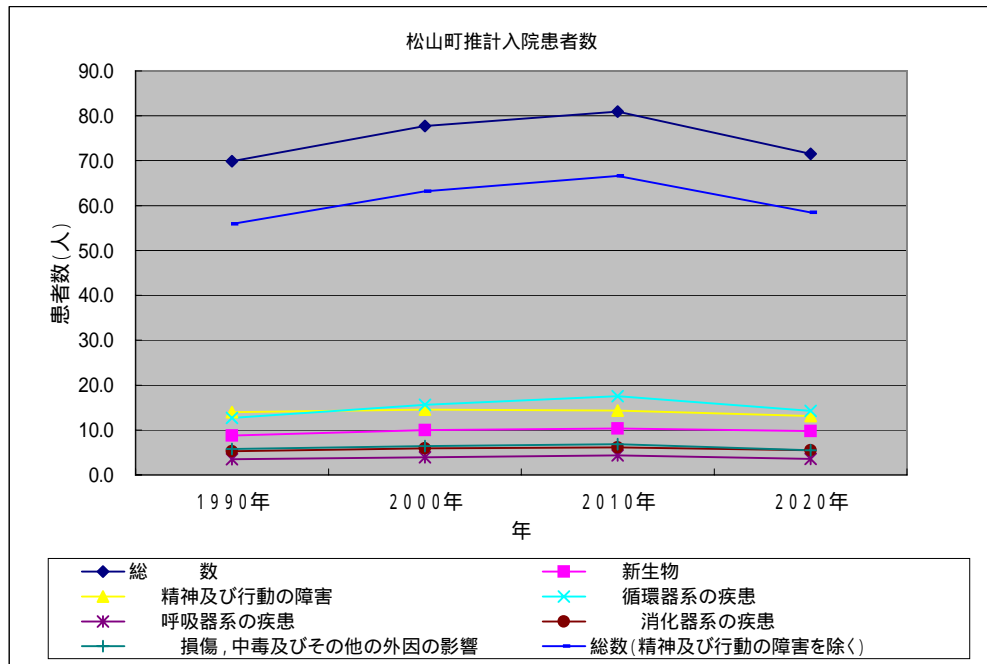


受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率

推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

松山町推計入院患者数

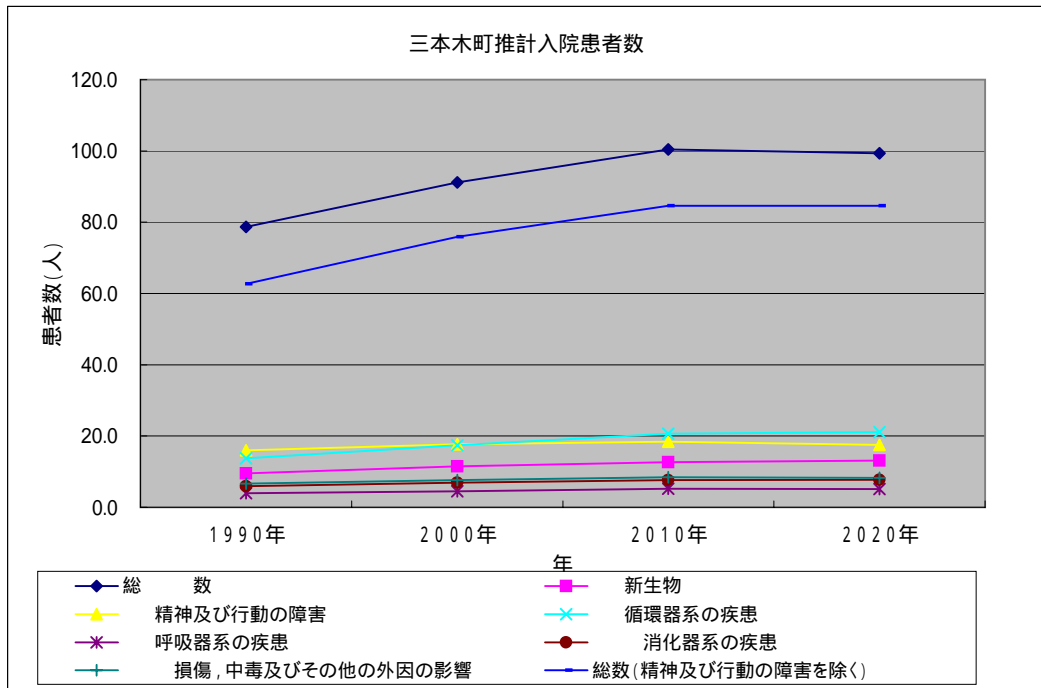
傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総数	69.9	77.7	81.0	71.6
感染症及び寄生虫症	2.0	2.3	2.5	2.2
新生物	8.8	10.0	10.4	9.7
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.4	0.4	0.4	0.4
内分泌, 栄養及び代謝疾患	2.2	2.6	2.6	2.2
精神及び行動の障害	14.0	14.6	14.3	13.1
神経系の疾患	2.7	2.8	2.7	2.5
眼及び付属器の疾患	0.8	0.9	1.0	0.9
耳及び乳様突起の疾患	0.2	0.2	0.2	0.2
循環器系の疾患	12.7	15.6	17.5	14.2
呼吸器系の疾患	3.5	3.9	4.3	3.6
消化器系の疾患	5.3	5.9	6.1	5.5
皮膚及び皮下組織の疾患	0.5	0.6	0.6	0.5
筋骨格系及び結合組織の疾患	3.8	4.2	4.3	3.7
尿路性器系の疾患	2.8	3.2	3.3	3.0
妊娠, 分娩及び産じょく	1.7	1.4	1.3	1.7
周産期に発生した病態	0.4	0.3	0.2	0.3
先天奇形, 変形及び染色体異常	0.6	0.5	0.4	0.4
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.1	1.3	1.3	1.2
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	5.8	6.4	6.8	5.5
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.7	0.6	0.5	0.6
総数(精神及び行動の障害を除く)	55.9	63.2	66.6	58.5



受療率: 平成11年患者調査・宮城県入院受療率
 推計人口: (財)統計情報研究開発センター推計人口

三本木町推計入院患者数

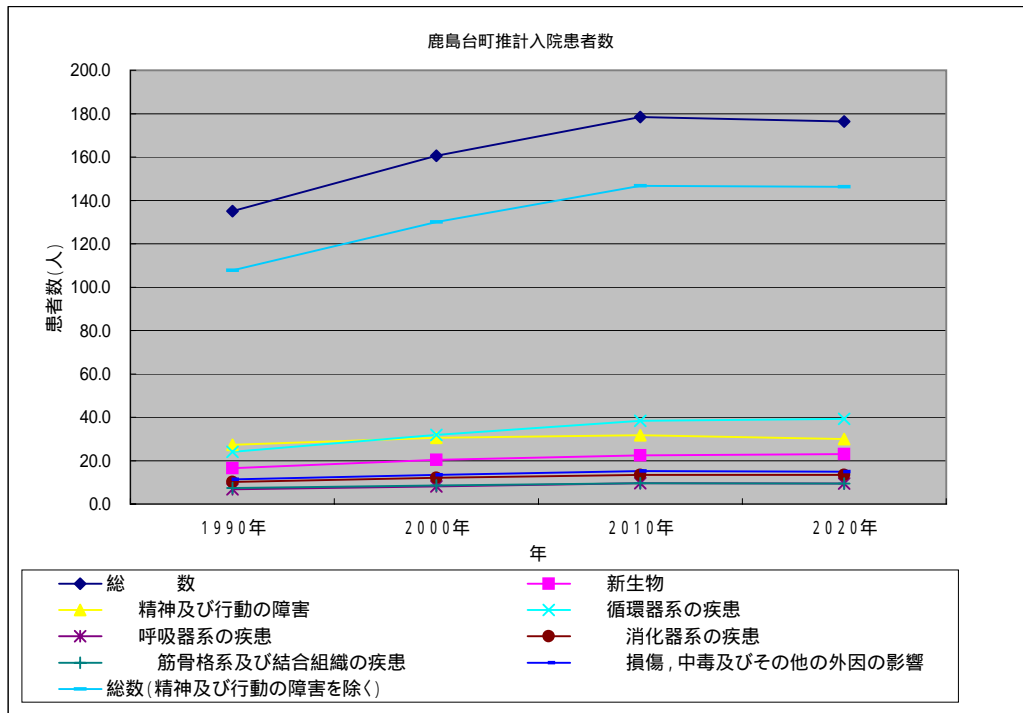
傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総 数	78.6	91.2	100.4	99.4
感染症及び寄生虫症	2.3	2.7	3.0	3.1
新生物	9.6	11.5	12.7	13.1
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.4	0.5	0.5	0.5
内分泌, 栄養及び代謝疾患	2.4	3.0	3.2	3.3
精神及び行動の障害	16.0	17.7	18.4	17.5
神経系の疾患	3.2	3.4	3.6	3.5
眼及び付属器の疾患	0.9	1.0	1.2	1.2
耳及び乳様突起の疾患	0.2	0.2	0.2	0.2
循環器系の疾患	13.7	17.4	20.7	21.1
呼吸器系の疾患	4.0	4.5	5.2	5.1
消化器系の疾患	5.9	7.0	7.7	7.7
皮膚及び皮下組織の疾患	0.5	0.6	0.7	0.7
筋骨格系及び結合組織の疾患	4.3	4.9	5.3	5.3
泌尿生殖器系の疾患	3.1	3.7	4.1	4.1
妊娠, 分娩及び産じょく	2.2	2.1	2.2	1.5
周産期に発生した病態	0.5	0.4	0.3	0.3
先天奇形, 変形及び染色体異常	0.7	0.6	0.5	0.5
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.3	1.5	1.7	1.6
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	6.7	7.6	8.4	8.2
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.9	3.2	3.4	3.5
総数(精神及び行動の障害を除く)	62.7	75.9	84.6	84.7



受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率
推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

鹿島台町推計入院患者数

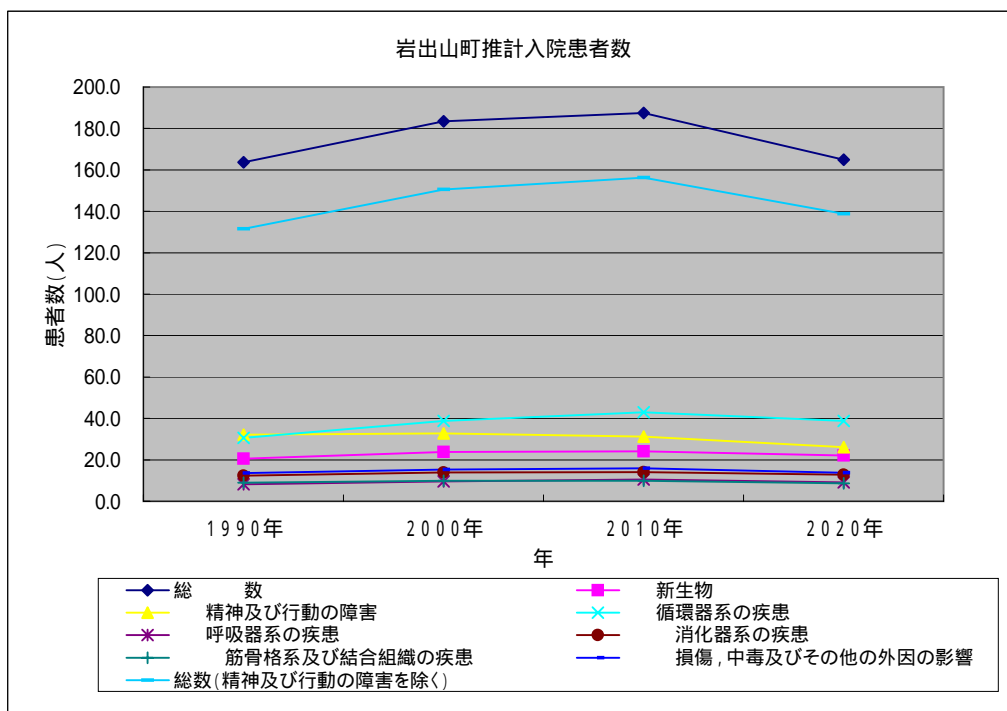
傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総数	135.1	160.6	178.5	176.5
感染症及び寄生虫症	3.9	4.8	5.4	5.5
新生物	16.5	20.3	22.4	23.0
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.7	0.9	1.0	1.0
内分泌,栄養及び代謝疾患	4.2	5.4	5.8	6.0
精神及び行動の障害	27.4	30.5	31.7	29.9
神経系の疾患	5.4	5.9	6.2	6.0
眼及び付属器の疾患	1.5	1.9	2.1	2.1
耳及び乳様突起の疾患	0.4	0.4	0.4	0.3
循環器系の疾患	24.1	31.9	38.4	39.2
呼吸器系の疾患	6.7	8.1	9.5	9.4
消化器系の疾患	10.1	12.1	13.4	13.4
皮膚及び皮下組織の疾患	0.9	1.1	1.4	1.4
筋骨格系及び結合組織の疾患	7.4	8.6	9.5	9.5
尿路性器系の疾患	5.3	6.5	7.3	7.4
妊娠,分娩及び産じょく	3.7	3.3	3.3	2.4
周産期に発生した病態	0.7	0.5	0.4	0.4
先天奇形,変形及び染色体異常	1.2	1.0	0.8	0.7
症状,徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.2	2.6	2.9	2.9
損傷,中毒及びその他の外因の影響	11.4	13.5	15.3	15.0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.4	1.3	1.2	0.7
総数(精神及び行動の障害を除く)	107.7	130.1	146.7	146.2



受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率
 推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

岩出山町推計入院患者数

傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総 数	163.6	183.4	187.5	164.9
感染症及び寄生虫症	4.8	5.6	5.9	5.3
新生物	20.6	23.9	24.1	22.1
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.8	1.0	1.0	0.9
内分泌、栄養及び代謝疾患	5.2	6.3	6.2	5.6
精神及び行動の障害	32.1	32.8	31.3	26.2
神経系の疾患	6.3	6.4	6.1	5.2
眼及び付属器の疾患	1.9	2.2	2.3	2.1
耳及び乳様突起の疾患	0.4	0.4	0.4	0.3
循環器系の疾患	30.6	38.8	43.0	38.7
呼吸器系の疾患	8.2	9.6	10.5	9.1
消化器系の疾患	12.4	13.9	14.1	12.8
皮膚及び皮下組織の疾患	1.1	1.4	1.5	1.3
筋骨格系及び結合組織の疾患	9.0	9.9	9.9	8.7
泌尿器系の疾患	6.6	7.6	7.9	7.1
妊娠、分娩及び産じょく	3.7	2.7	2.4	1.5
周産期に発生した病態	0.8	0.5	0.4	0.3
先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	0.9	0.7	0.5
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.7	3.0	3.1	2.8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	13.6	15.3	15.9	13.7
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.5	1.2	1.0	0.7
総数(精神及び行動の障害を除く)	131.5	150.6	156.2	138.7

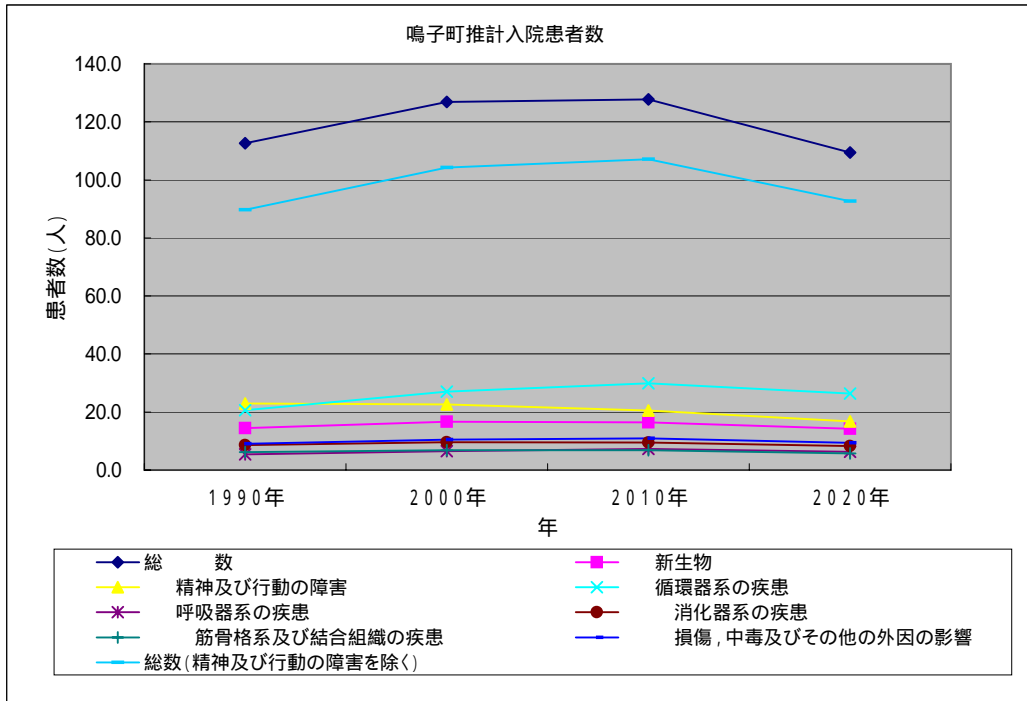


受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率

推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

鳴子町推計入院患者数

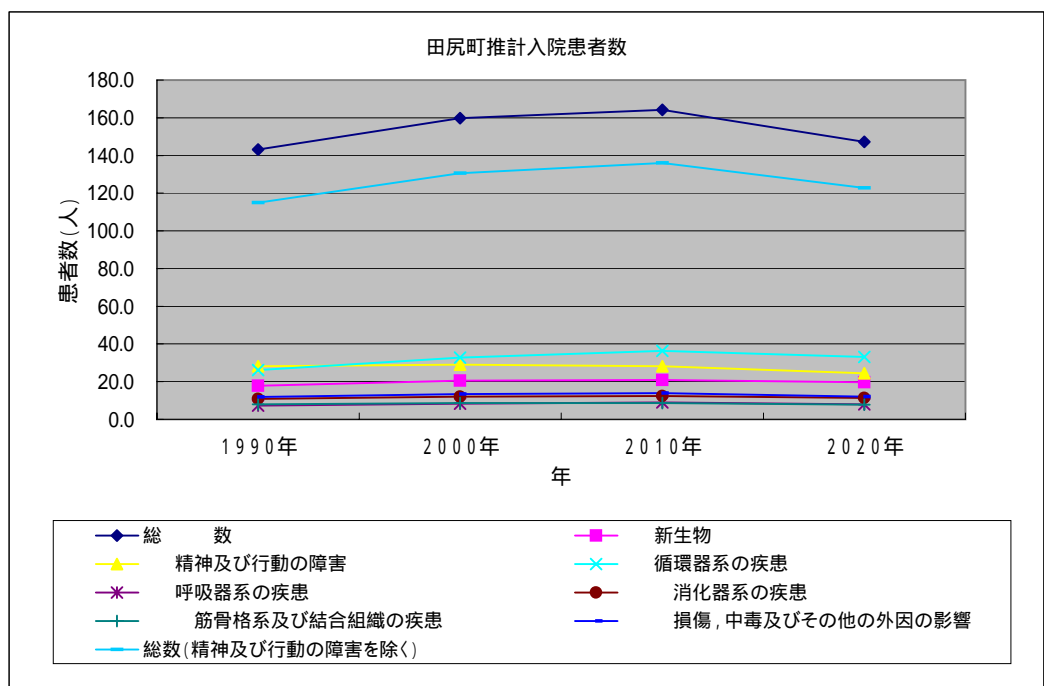
傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総 数	112.6	126.9	127.7	109.5
感染症及び寄生虫症	3.3	3.9	4.0	3.5
新生物	14.4	16.7	16.4	14.2
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.6	0.7	0.7	0.6
内分泌、栄養及び代謝疾患	3.6	4.3	4.3	3.7
精神及び行動の障害	22.9	22.6	20.6	16.7
神経系の疾患	4.3	4.4	4.1	3.4
眼及び付属器の疾患	1.3	1.6	1.6	1.3
耳及び乳様突起の疾患	0.3	0.3	0.2	0.2
循環器系の疾患	20.6	27.0	29.8	26.4
呼吸器系の疾患	5.4	6.6	7.3	6.3
消化器系の疾患	8.6	9.6	9.5	8.3
皮膚及び皮下組織の疾患	0.8	0.9	1.1	0.9
筋骨格系及び結合組織の疾患	6.2	6.9	6.8	5.8
泌尿器系の疾患	4.5	5.3	5.4	4.7
妊娠、分娩及び産じょく	2.5	1.8	1.4	1.1
周産期に発生した病態	0.5	0.4	0.3	0.2
先天奇形、変形及び染色体異常	0.8	0.6	0.5	0.3
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.8	2.1	2.1	1.8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	9.1	10.5	10.9	9.4
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.0	0.8	0.6	0.5
総数(精神及び行動の障害を除く)	89.7	104.3	107.1	92.7



受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率
 推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

田尻町推計入院患者数

傷病大分類	1990年	2000年	2010年	2020年
総 数	143.1	159.7	164.3	147.2
感染症及び寄生虫症	4.2	4.9	5.1	4.7
新生物	17.9	20.5	20.9	19.7
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.7	0.9	0.9	0.8
内分泌、栄養及び代謝疾患	4.5	5.4	5.3	4.9
精神及び行動の障害	28.2	29.1	28.2	24.4
神経系の疾患	5.6	5.7	5.5	4.9
眼及び付属器の疾患	1.7	1.9	2.0	1.8
耳及び乳様突起の疾患	0.4	0.3	0.3	0.3
循環器系の疾患	26.2	32.9	36.4	33.2
呼吸器系の疾患	7.3	8.3	9.0	7.9
消化器系の疾患	10.8	12.1	12.4	11.4
皮膚及び皮下組織の疾患	1.0	1.2	1.3	1.2
筋骨格系及び結合組織の疾患	7.9	8.6	8.7	7.7
尿路器系の疾患	5.7	6.6	6.8	6.3
妊娠、分娩及び産じょく	3.5	2.8	2.8	1.7
周産期に発生した病態	0.7	0.5	0.4	0.3
先天奇形、変形及び染色体異常	1.2	0.9	0.7	0.6
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2.4	2.6	2.7	2.5
損傷、中毒及びその他の外因の影響	11.9	13.4	13.9	12.1
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1.4	1.1	1.0	0.8
総数(精神及び行動の障害を除く)	114.9	130.6	136.1	122.7



受療率:平成11年患者調査・宮城県入院受療率
推計人口:(財)統計情報研究開発センター推計人口

将来推計人口

患者数推計に用いた将来推計人口

	古川市	松山町	三本木町	鹿島台町	岩出山町	鳴子町	田尻町	計
平成22年	83,772	5,932	8,087	13,337	12,069	7,949	11,530	142,676
平成32年	92,365	5,135	7,481	12,268	9,858	6,310	9,771	143,188

推計人口：(財)統計情報研究開発センター推計人口

推計人口の算定方法について

日本女子大学人間社会学部の大友教授の指導の下に(財)統計情報研究開発センターが平成7年及び平成12年の国勢調査の年齢5歳階級別人口を基に、市区町村別の将来推計人口を算定しました。

市区町村別将来推計人口の算定に際しては、「コーホート変化率法」と呼ばれる推計方法を用いています。

これは5年間における男女、年齢5歳階級別死亡と人口の移動の動向及び平成12年における出生率の水準が将来も同様に持続するものと仮定して、推計したものです。

0～4歳人口の推計については平成12年の国勢調査結果の15～49歳の女子人口に対する0～4歳の男女別人口の比率を用いて推計しています。次の示す方法で推計年の15～49歳の女子人口を推計し、次いでこの女子人口に先の比率を乗じて男女別に推計しています。

5歳以上の各年齢階級の人口推計は、死亡及び転入と転出の差が平成7年から平成12年までの状況と等しいと仮定して推計しています。すなわち、男女別に平成12年の当該年齢5歳階級人口(年齢不詳配分済の数字)の平成7年の5歳下の階級人口(年齢不詳配分済の数字)に対する比率を直近の5年前の5歳下の階級の結果に乗じて推計しています。

推計式

推計方法は以下のようになります。

$${}_5P_x^n : n\text{年の}x \sim x + 4\text{歳の人口}(x = 0, 5, 10, \dots, 85)$$

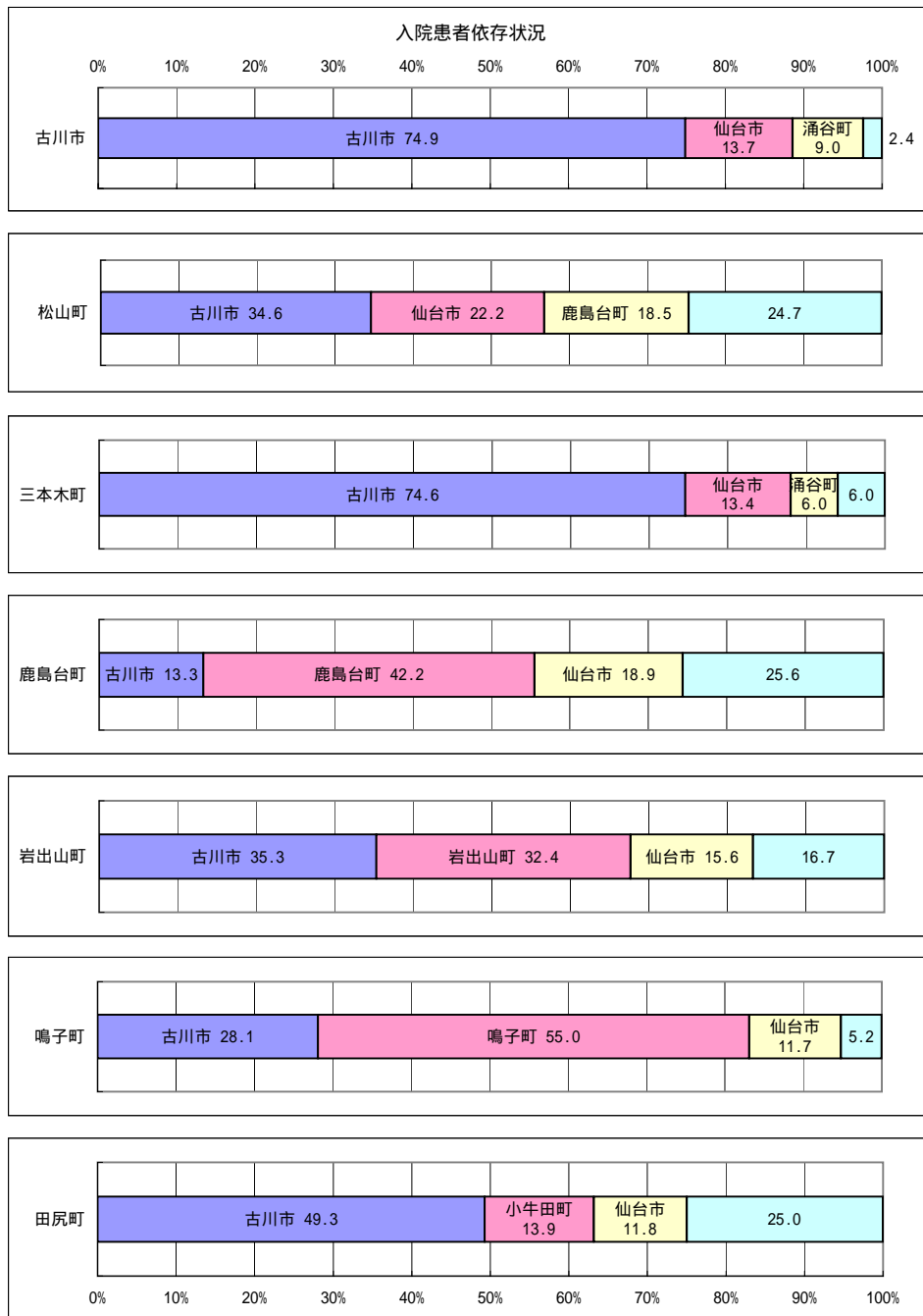
$$p^n : n\text{年の人口総数}$$

$${}_5P_x^{95} : \text{平成7年(1995年)の年齢不詳調整済の}x \sim x + 4\text{歳の人口}$$

$${}_5P_x^{00} : \text{平成12年(2000年)の年齢不詳調整済の}x \sim x + 4\text{歳の人口}$$

2. 市町村別入院患者依存状況

平成14年9月「宮城県地域保健医療計画基礎調査」より



3. 市町村別外来患者依存状況

平成14年9月「宮城県地域保健医療計画基礎調査」より



大崎地方 4 病院・ 1 診療所

経営分析

この資料は、各病院及び診療所の過去 4 年間における経営データの「推移の確認」と「統計指標との比較」を行ったものである。

注) 統計指標：同規模病院平均値（公営企業年鑑より）

目 次

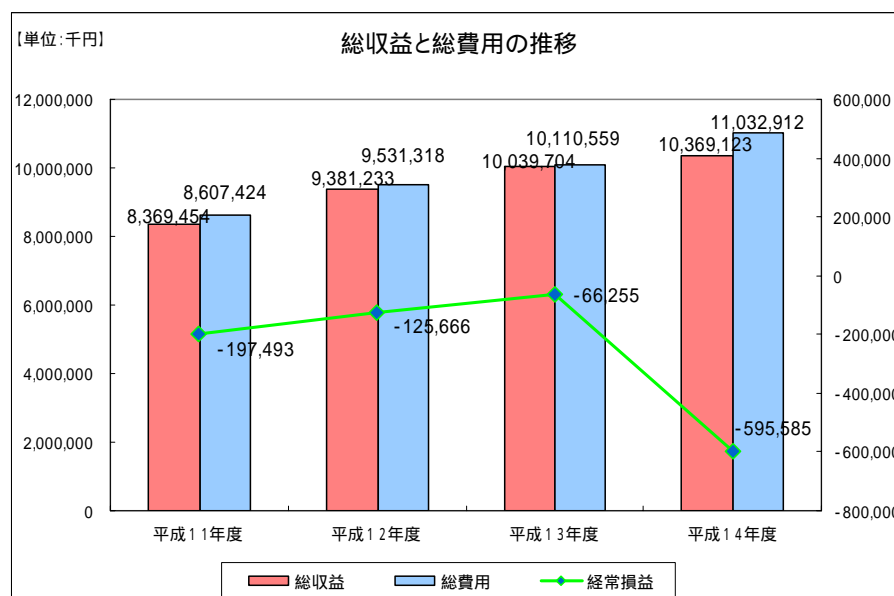
・ 古川市立病院	1
・ 町立鳴子温泉病院	6
・ 鹿島台町国保病院	11
・ 岩出山町民病院	16
・ 田尻町国保診療所	21
・ 4病院及び1診療所全体の経営状況	24
・ 4病院及び1診療所全体の運営状況	27
・ 4病院相对比较（機能比較）	32

古川市立病院

1. 収益状況の分析

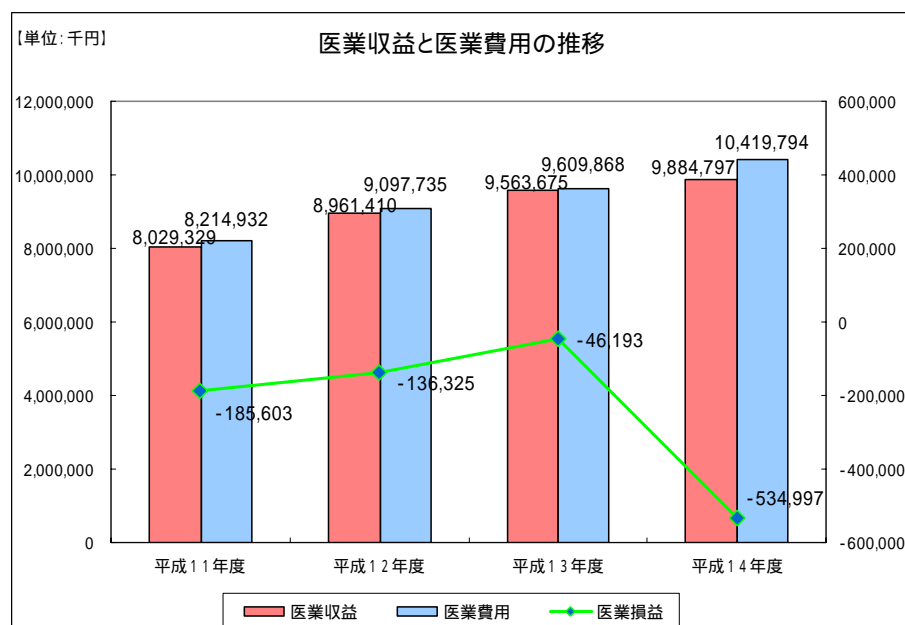
(1) 総収益と総費用の推移

総収益及び総費用ともに、増加傾向にあるが、前年度に比べて平成14年度の経常損失が-595,585千円と大幅な増加を示している。これは、南病棟建設により減価償却費等が増加した影響によるものである。



(2) 医業収益と医業費用の推移

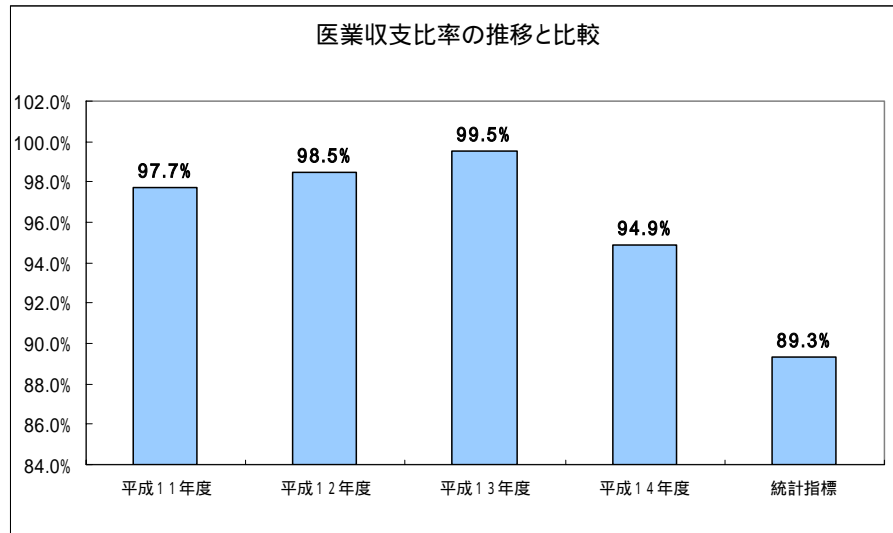
医業収益及び医業費用ともに、増加傾向にあるが、平成14年度の経常損失が前年度に比べて-534,997千円と大幅な増加を示している。これも前項同様に、南病棟建設により減価償却費等が増加した影響によるものである。



(3) 医業収支比率及び医業収益に対する費用比率の推移と比較

1) 医業収支比率の推移と比較

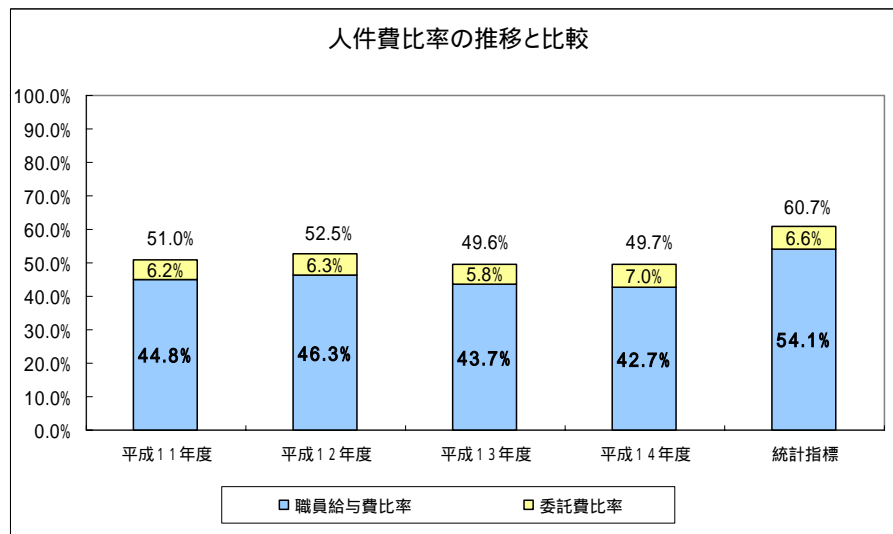
医業収支比率は、平成13年度までは増加傾向にあったが、平成14年度は94.9%と前年と比べ、約4.6ポイントの減少がみられる。但し、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の89.3%は上回っている。



2) 人件費比率の推移と比較

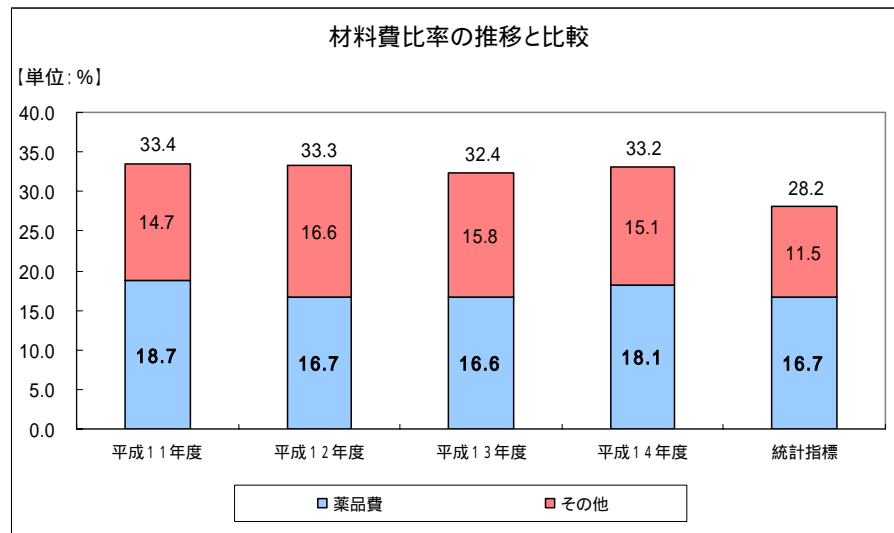
人件費比率は、ほぼ同割合で推移している。

また、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の54.1%を大きく下回っており、経営的にみて、きわめて良好な状態であるといえる。



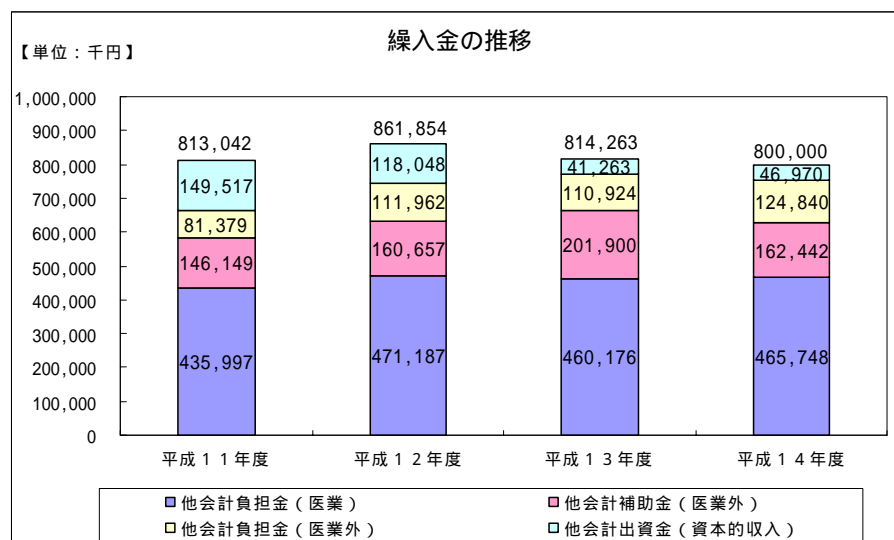
3) 材料費比率の推移と比較

材料費比率は、ほぼ同割合で推移し、大幅な増減はみられないが、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の28.2%と比較すると、高い状態となっている。



(4) 繰入金の推移

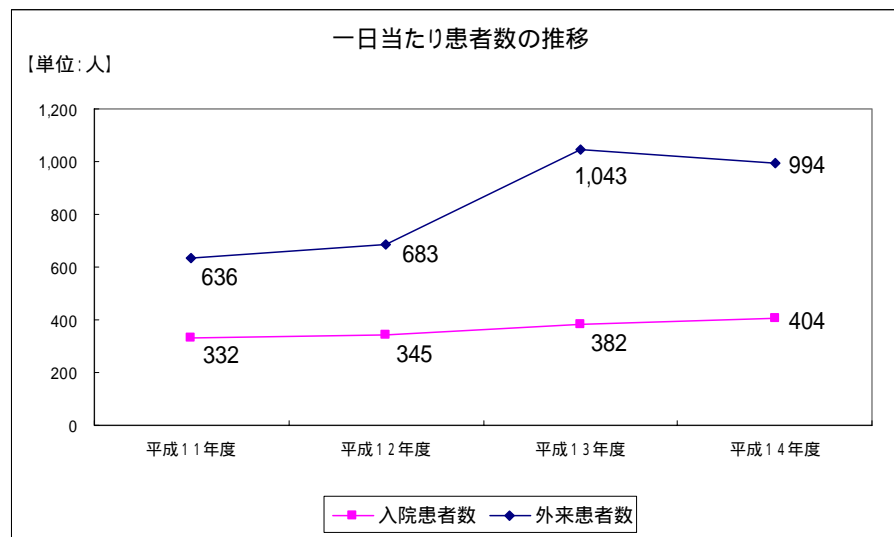
繰入金（資金的収入含む）は、平成12年度以降減少傾向にあり、平成14年度は合計で800,000千円となっている。



2. 業務状況の分析

(1) 患者数の推移

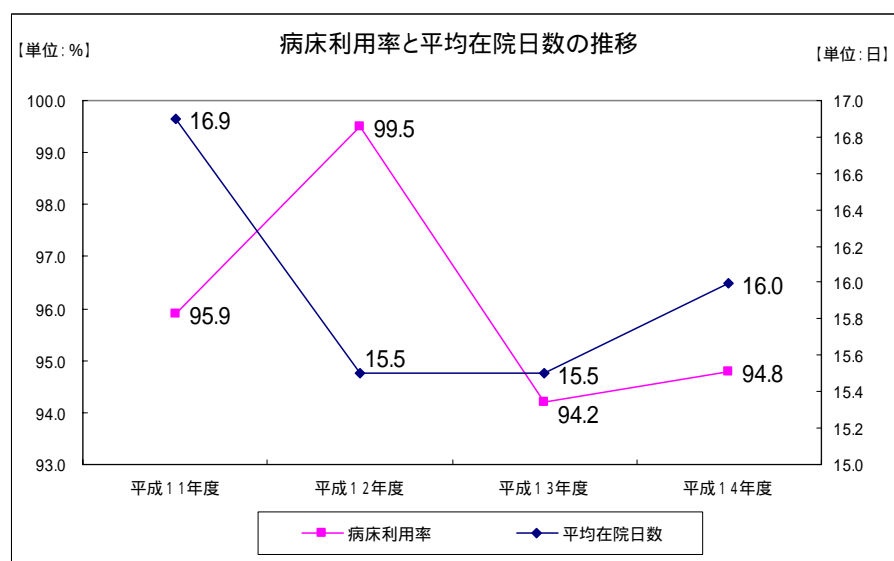
一日当たり患者数を入院・外来別にみると、入院患者は平成14年度で404人と増加傾向にあり、外来患者数は、平成13年度は前年度から約1.5倍の患者増となっている。



(2) 病床利用率と平均在院日数の推移

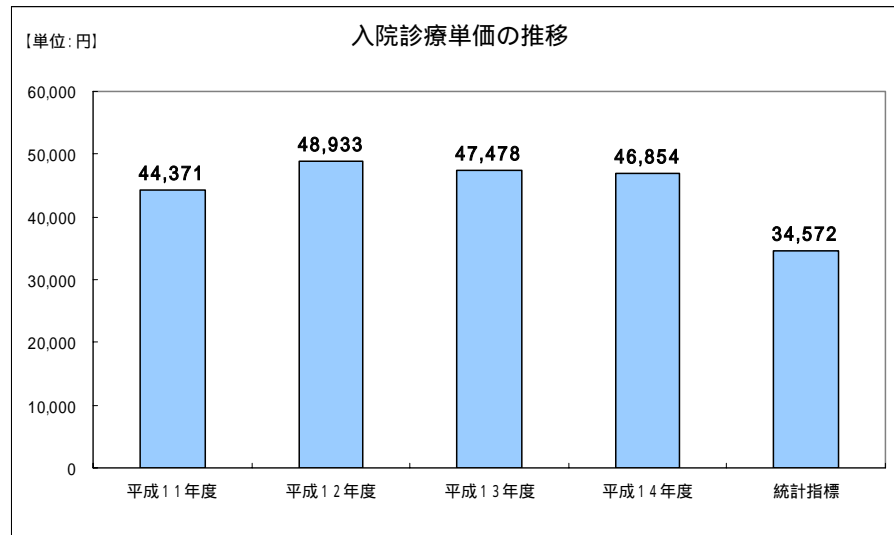
病床利用率は、平成12年度で99.5%であったが、平成13、14年度はそれぞれ94.2%、94.8%と減少している。これは平成13年度に77床増床した影響であると考えられる。また、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の86.8%と比較しても稼働状況はよいと判断できる。

平均在院日数は、平成14年度で16.0日と前年より0.5日延長しているものの、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の19.6日と比較すると短い。



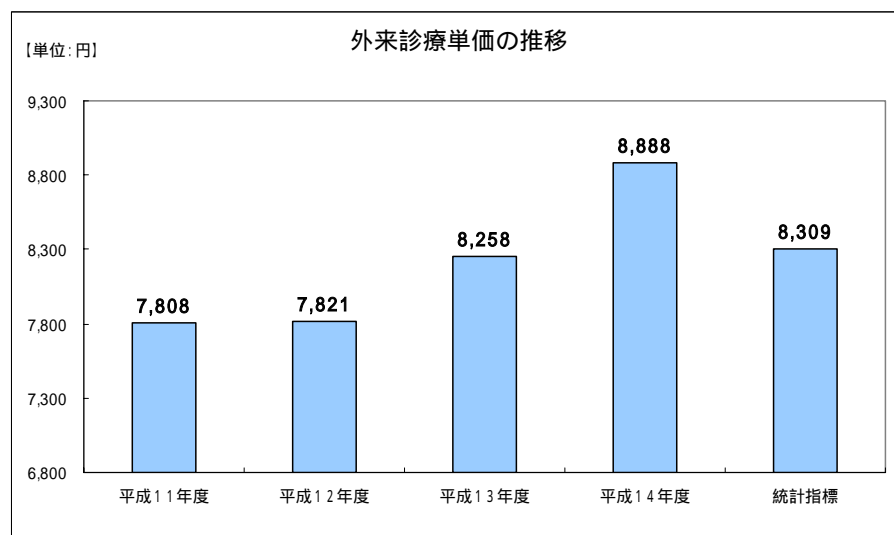
(3) 入院診療単価の推移

患者一人あたりの入院診療収益は、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の34,572円に比べ大きく上回っている。



(4) 外来診療単価の推移

患者一人あたりの外来診療収益は、平成14年度が8,888円と統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床400床以上500床未満）の8,309円を大きく上回っており、さらに増加傾向にある。

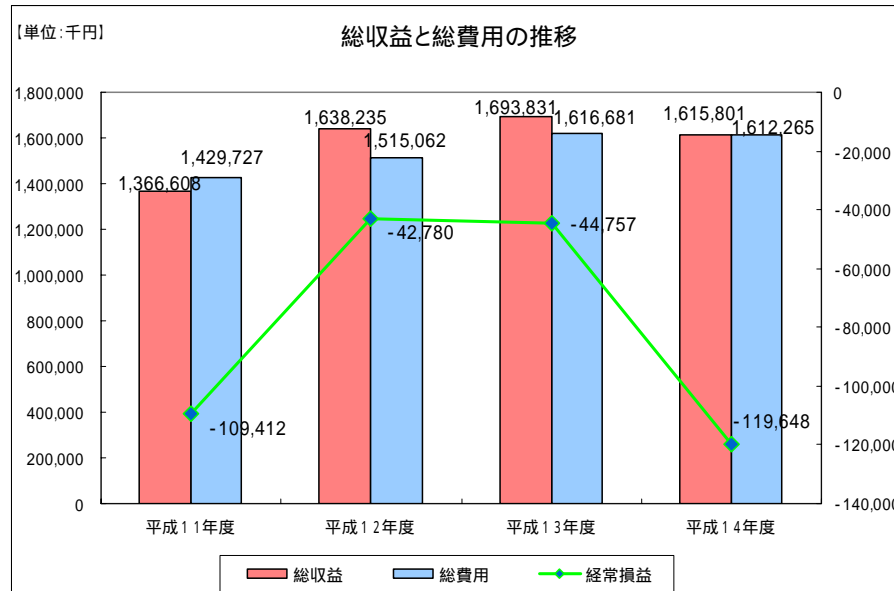


町立鳴子温泉病院

1. 収益状況の分析

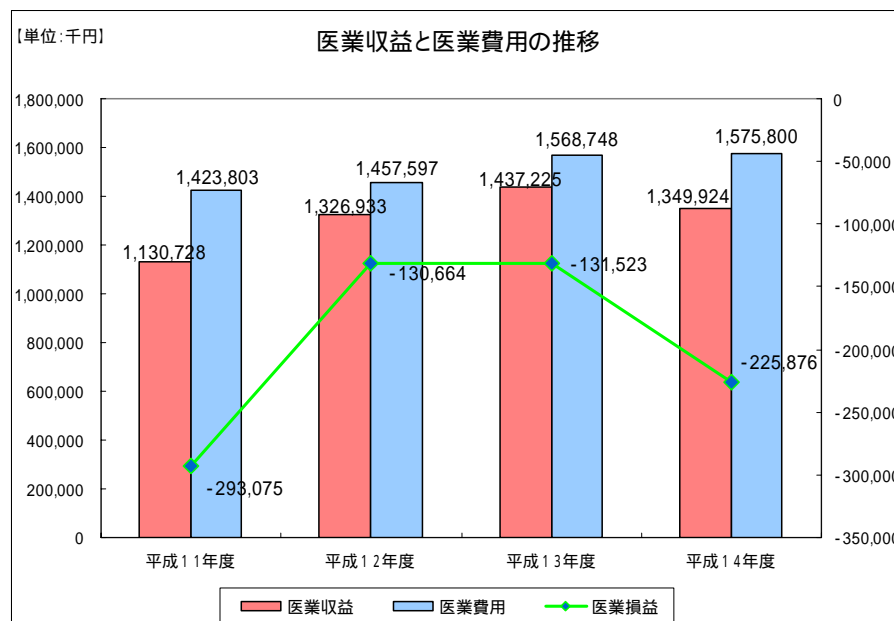
(1) 総収益と総費用の推移

総収益及び総費用については、平成14年度の総収益及び総費用とも対前年に比べ減少している。



(2) 医業収益と医業費用の推移

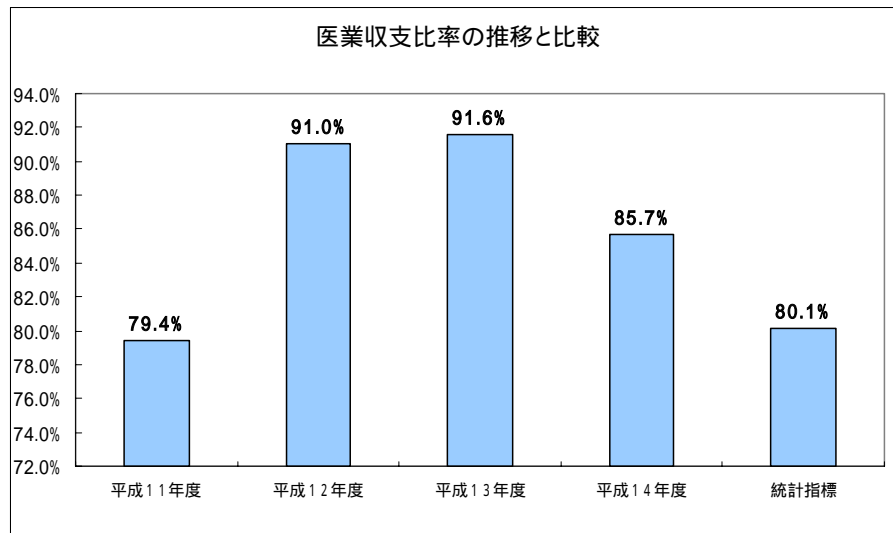
平成14年度の医業費用が対前年に比べ、増加しているのに対し、医業収益が減少している。



(3) 医業収支比率及び医業収益に対する費用比率の推移と比較

1) 医業収支比率の推移と比較

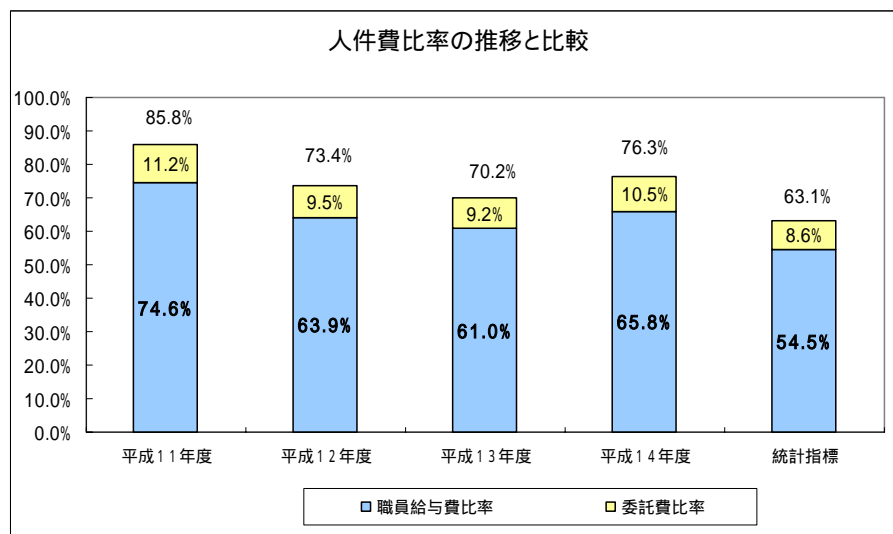
医業収支比率は、平成 13 年度までは増加傾向にあったが、平成 14 年度は 85.7%と前年に比べ、約 5.9 ポイントの減少がみられる。但し、統計指標（平成 13 年度地方公営企業年鑑：一般病床 100 床以上 200 床未満）の 80.1%は上回っている。



2) 人件費比率の推移と比較

人件費比率は、平成 13 年度までは減少傾向にあったが、平成 14 年度は 65.8%と前年に比べ、約 4.8 ポイントの増加がみられる。

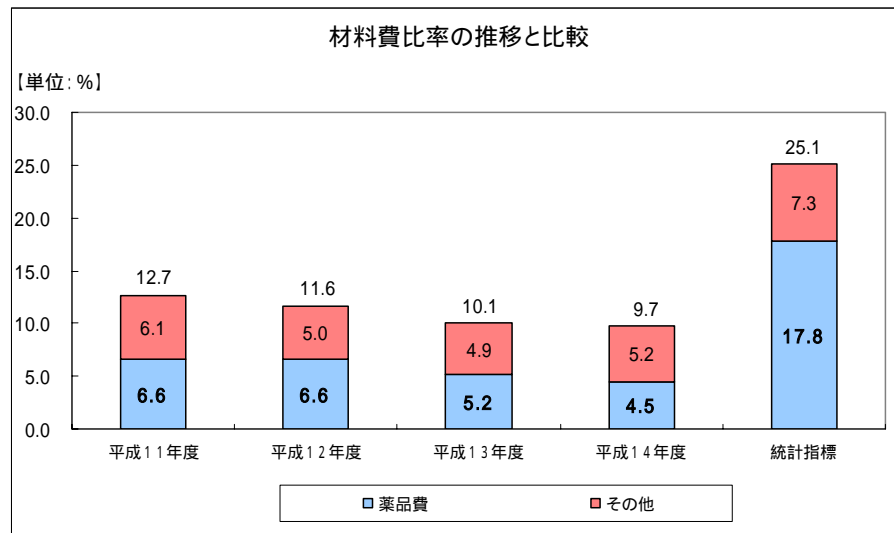
また、統計指標（平成 13 年度地方公営企業年鑑：一般病床 100 床以上 200 床未満）の 54.5%を上回っている。



3) 材料費比率の推移と比較

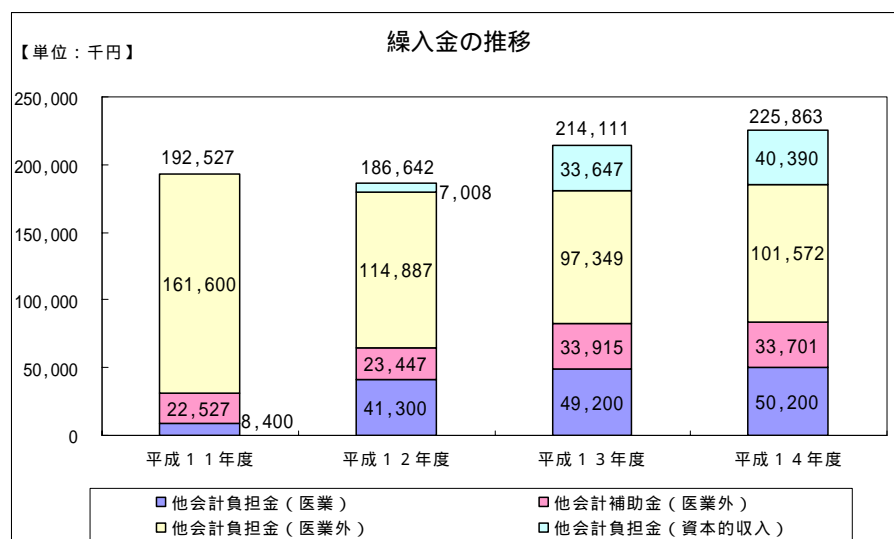
材料費比率は、平成14年度で9.7%となっており、過去4年間減少傾向にある。

さらに、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満）の25.1%と比較すると、大きく下回っている。



(4) 繰入金の推移

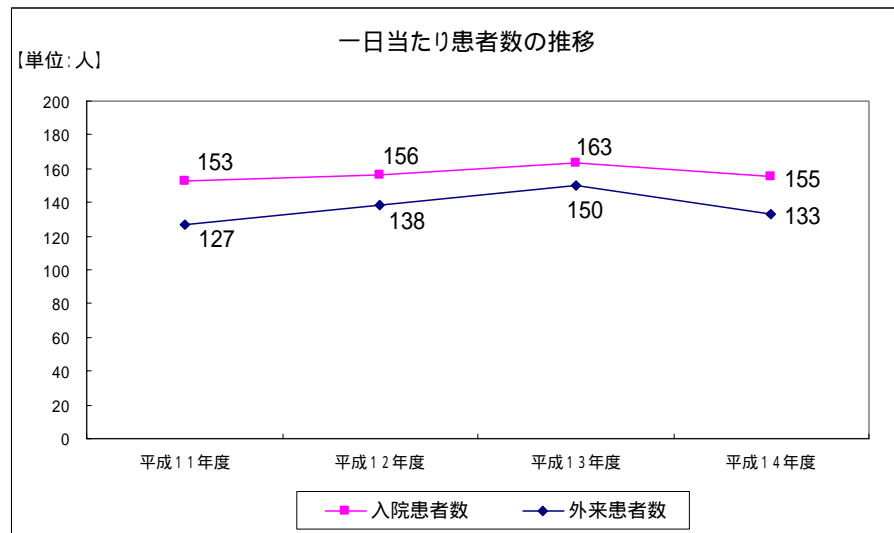
繰入金（資本的収入含む）は、平成13年度より増加傾向にある。



2. 業務状況の分析

(1) 患者数の推移

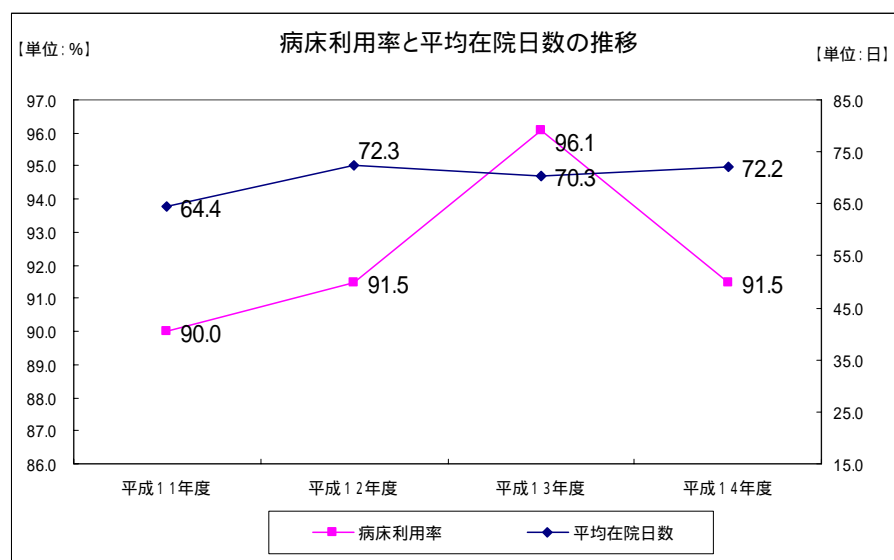
一日当たり患者数を入院・外来別にみると、平成13年度までは、入院及び外来患者ともに若干の増加傾向にあったが、平成14年度に若干減少している。



(2) 病床利用率と平均在院日数の推移

病床利用率は、平成12年度で96.1%であったが、平成14年度は91.5%と減少している。但し、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満）の77.4%を大きく上回っている。

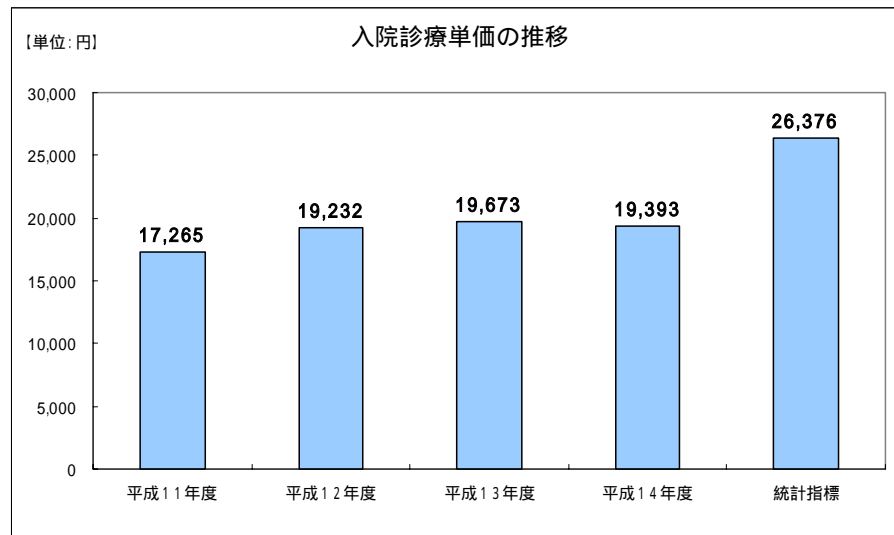
平均在院日数は、ほぼ同日数で推移しているが、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満）の26.6日を著しく上回っている。但しこれは、リハビリテーションを中心とした長期療養医療を提供していることによるものである。



(3) 入院診療単価の推移

患者一人あたりの入院診療単価は、ほぼ同額で推移している。

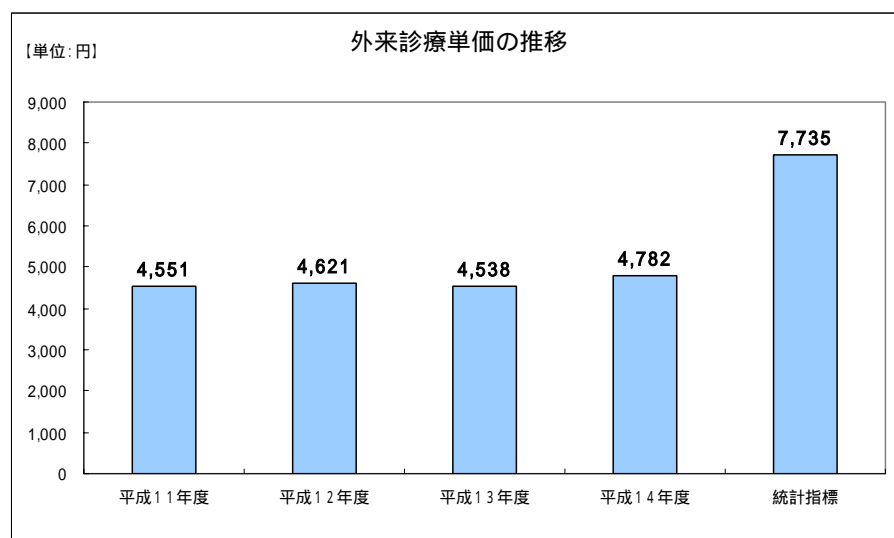
統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑:一般病床100床以上200床未満)の26,376円に比べ大きく下回っている。



(4) 外来診療単価の推移

患者一人あたりの外来診療単価は、ほぼ同額で推移している。

統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑:一般病床100床以上200床未満)の7,735円と比べ大きく下回っている。

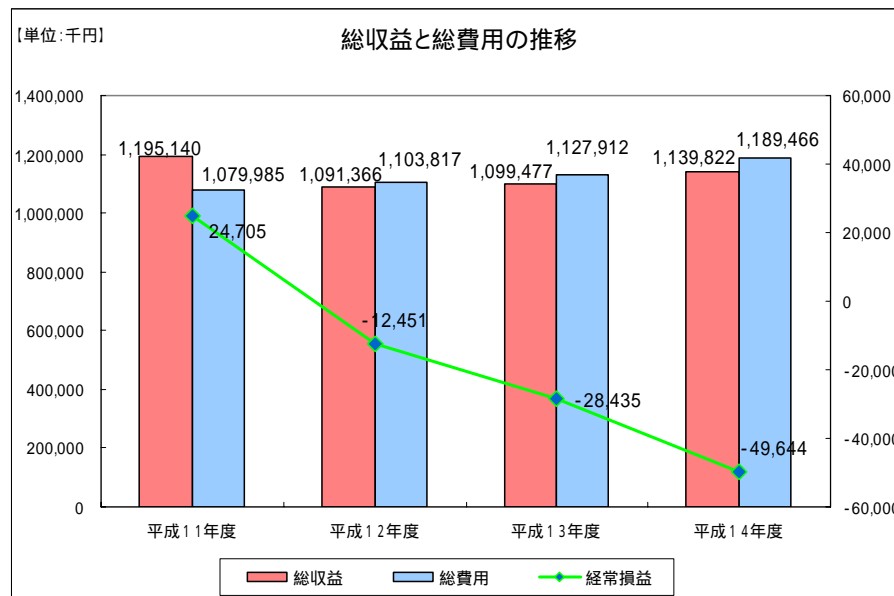


鹿島台町国保病院

1. 収益状況の分析

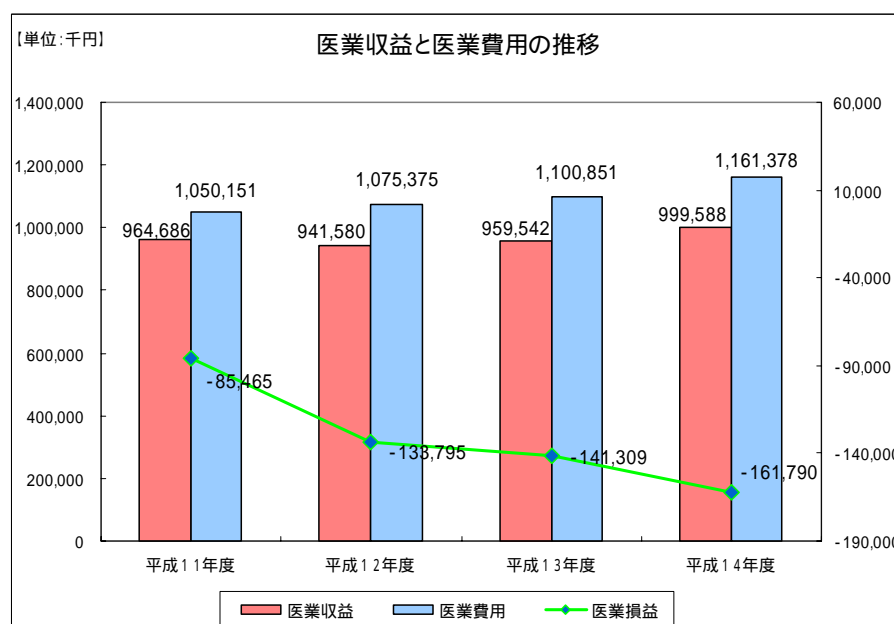
(1) 総収益と総費用の推移

総収益及び総費用については、明らかに総費用の増加とともに、経常損失が増加している。



(2) 医業収益と医業費用の推移

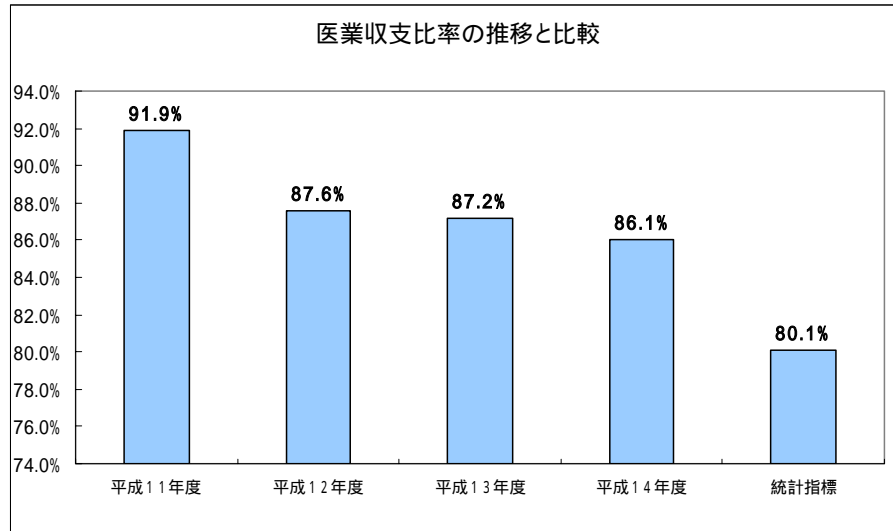
医業費用の増加率が医業収益の増加率を上回っているため、医業損失が増加傾向にある。



(3) 医業収支比率及び医業収益に対する費用比率の推移と比較

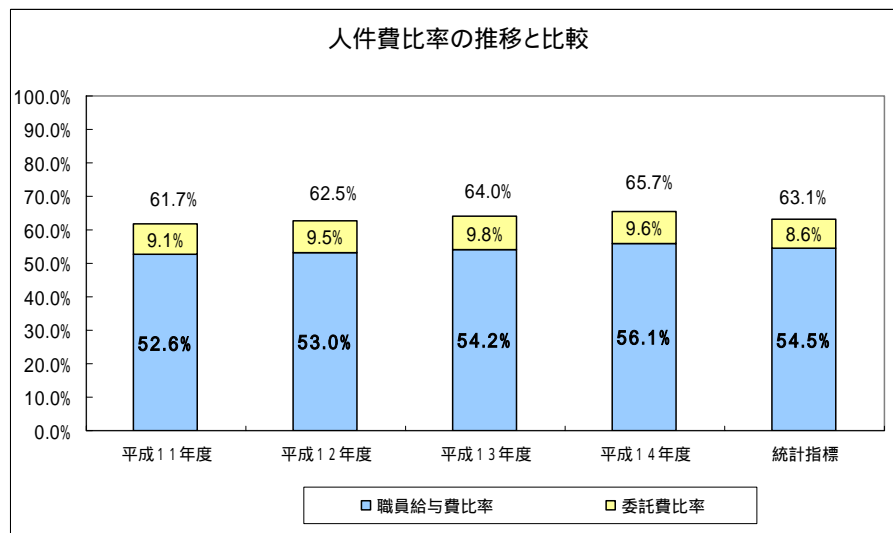
1) 医業収支比率の推移と比較

医業収支比率は、悪化傾向にある。但し、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満）の80.1%は上回っている。



2) 人件費比率の推移と比較

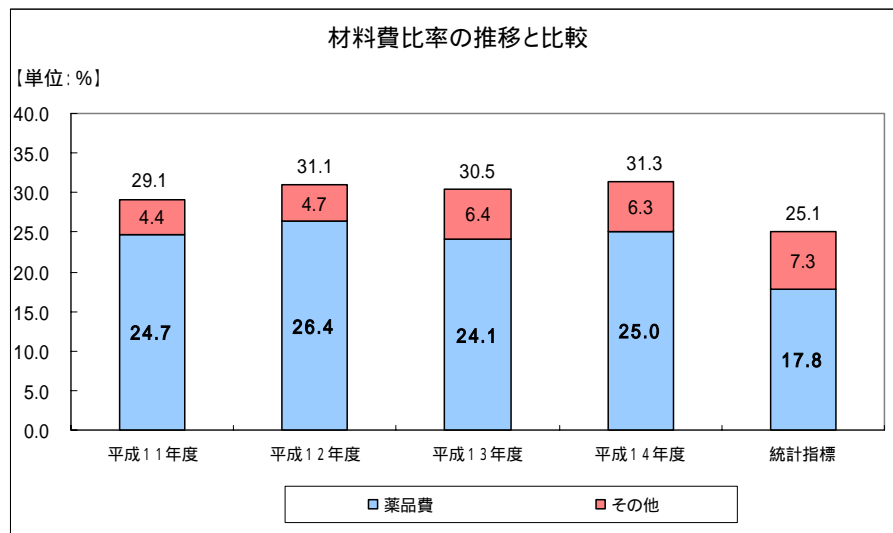
人件費比率は、若干増加傾向にある。また、平成14年度が56.1%となっており、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満）の54.5%を上回っている。



3) 材料費比率の推移と比較

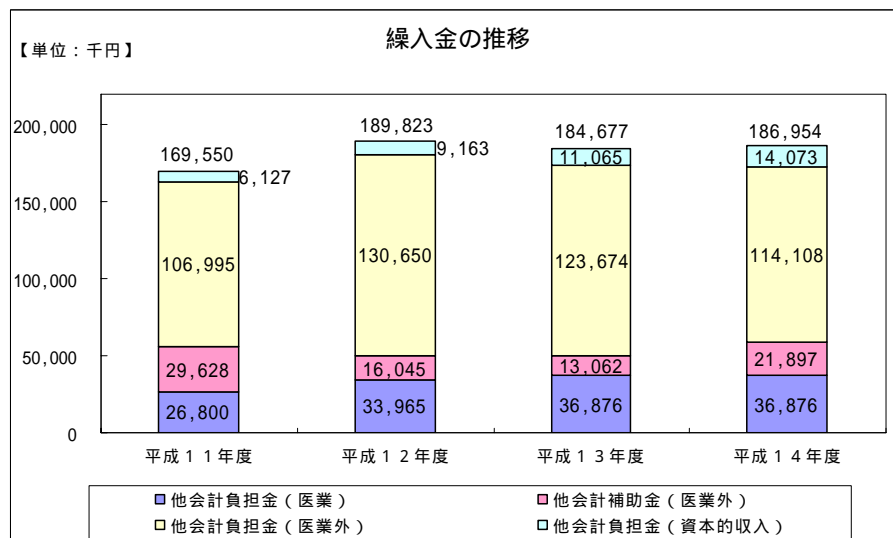
材料費比率は、ほぼ同割合で推移し、大きな増減はみられないが、約 25.0%を薬品費が占めている。これは院外処方未実施のためである。

さらに、統計指標（平成 13 年度地方公営企業年鑑：一般病床 100 床以上 200 床未満）の 25.1%に比べ大きく上回っている。



(4) 繰入金の推移

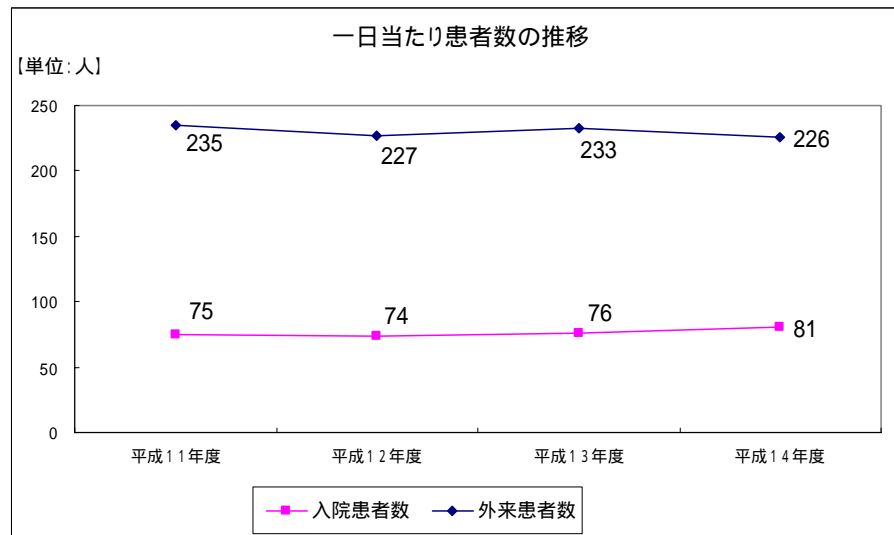
繰入金（資金的収入含む）は、ほぼ同数で推移し、大きな増減はみられない。



2. 業務状況の分析

(1) 患者数の推移

一日当たり患者数は、入院及び外来患者ともにほぼ同数で推移している。

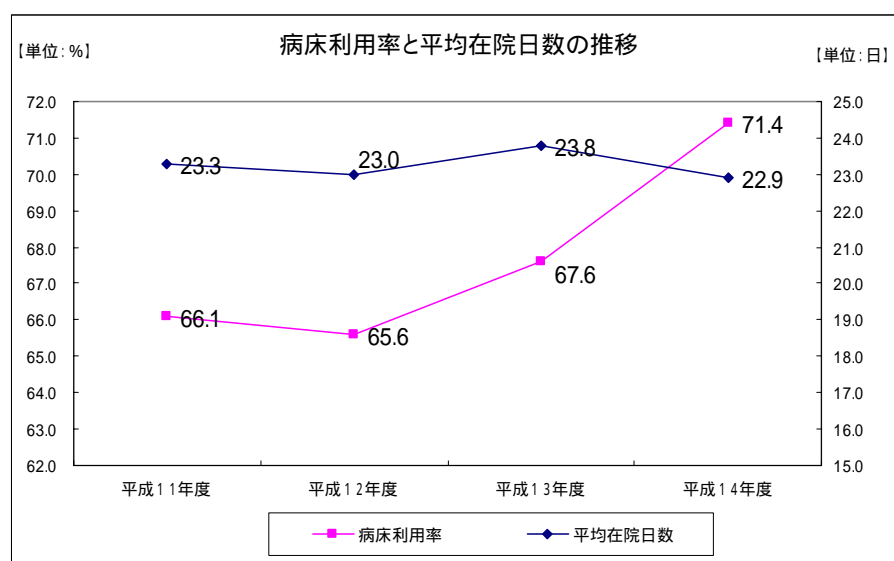


(2) 病床利用率と平均在院日数の推移

病床利用率は、平成12年度以降、増加傾向にある。

但し、統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑:一般病床100床以上200床未満)の77.4%より下回っている。

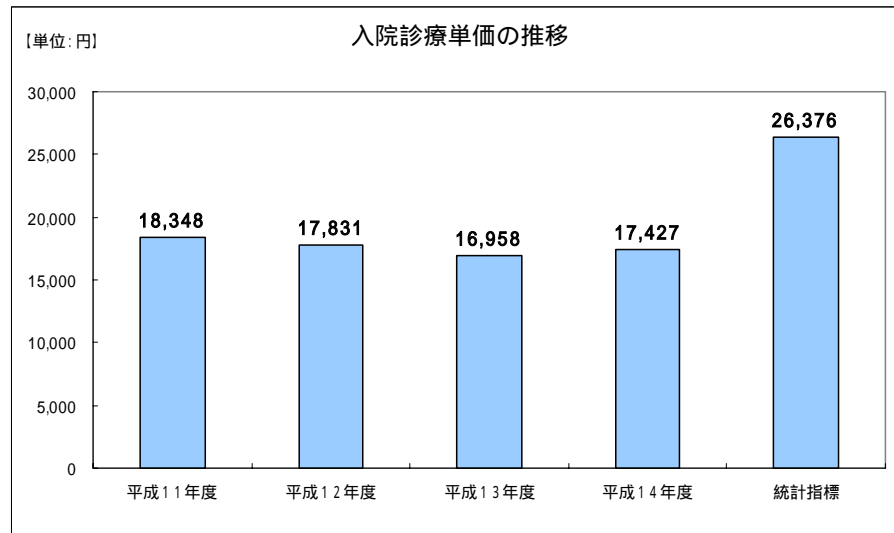
平均在院日数は、ほぼ同日数で推移している。また、統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑:一般病床100床以上200床未満)の26.6日を下回っている。



(3) 入院診療単価の推移

患者一人あたりの入院診療単価は、平成12年度までは減少傾向にあったが、平成14年度では、17,427円と若干増加している。

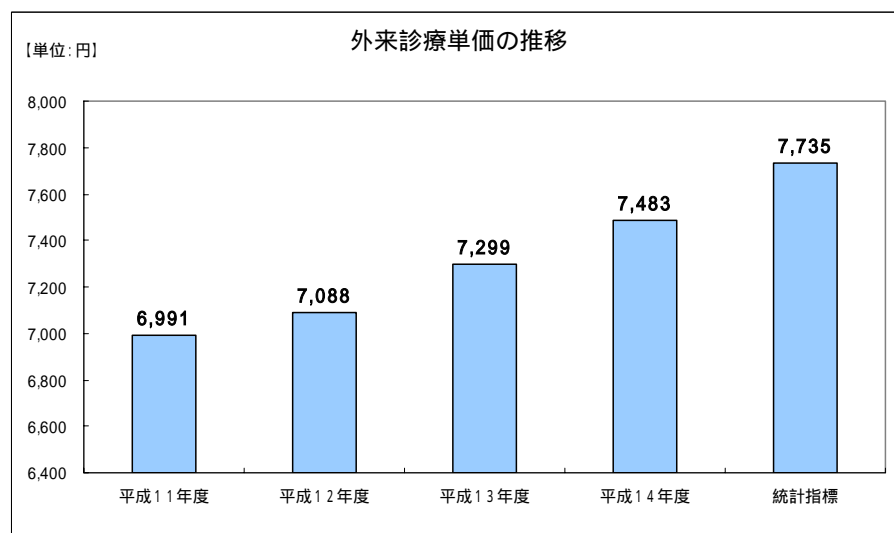
但し、統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満)の26,376円に比べ大きく下回っている。



(4) 外来診療単価の推移

患者一人あたりの外来診療単価は、著しく増加傾向にある。

但し、統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満)の7,735円と比べ下回っている。

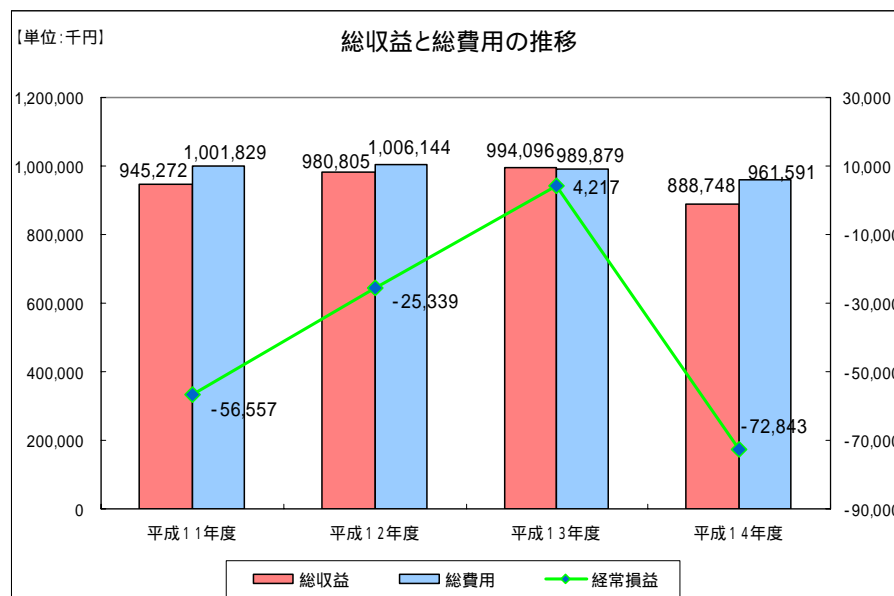


． 岩出山町民病院

1．収益状況の分析

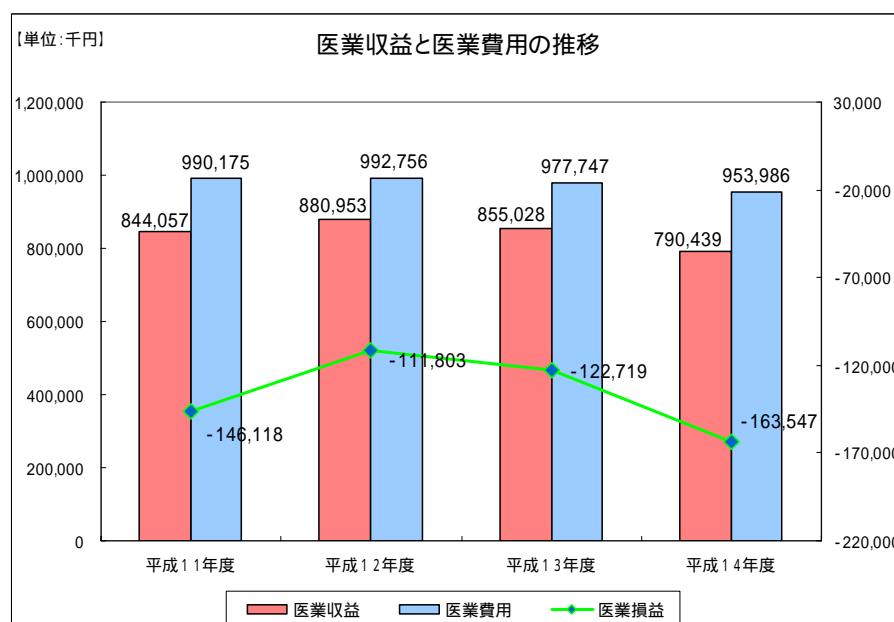
(1) 総収益と総費用の推移

総収益及び総費用については、平成14年度において総収益が著しく減少している。これは、外来診療において常勤医師がこれまでの福島県立医科大学医学部から東北大学医学部へ移行し、医師確保における過渡期であったため、減少したものである。それに伴い、平成13年度まで増加傾向にあった経常損失が大きく増加している。



(2) 医業収支比率及び医業収益と医業費用の推移

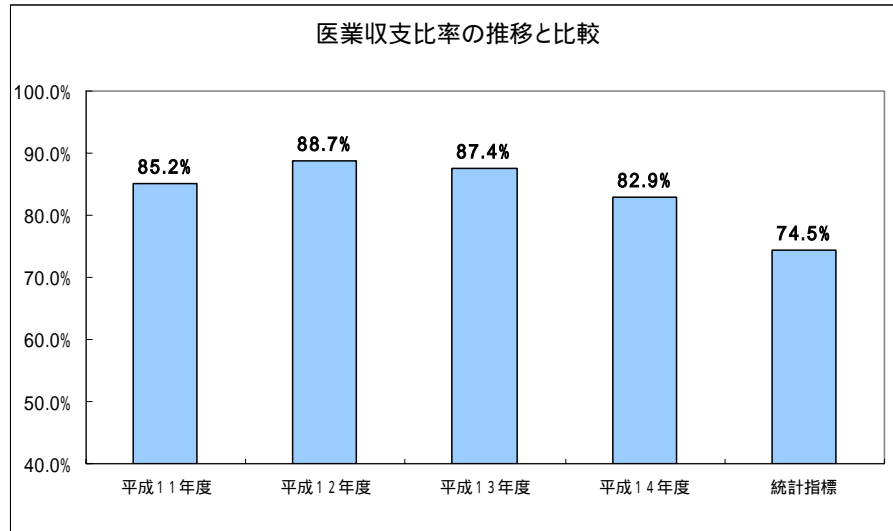
医業収益及び医業費用ともに若干減少傾向にある。



(3) 医業収支比率及び医業収益に対する費用比率の推移と比較

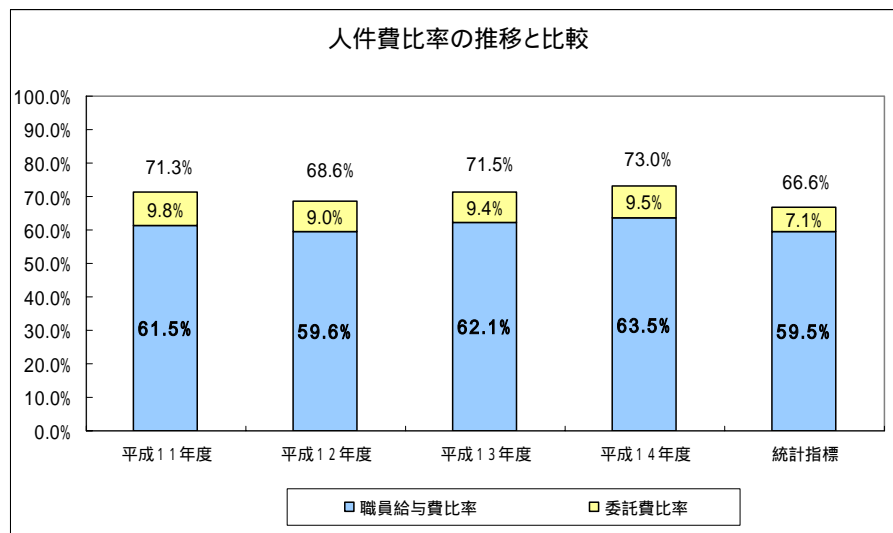
1) 医業収支比率の推移と比較

医業収支比率は、平成13年度より悪化傾向にある。但し、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床50床以上100床未満）の74.5%は上回っている。



2) 人件費比率の推移と比較

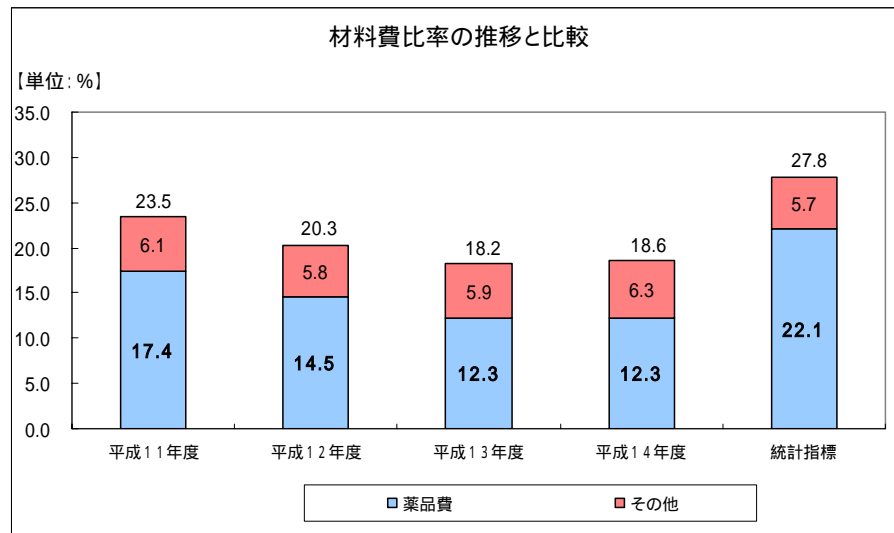
人件費比率は、平成12年度より若干増加傾向にある。さらに、統計指数（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床50床以上100床未満）の59.5%を上回っている。



3) 材料費比率の推移と比較

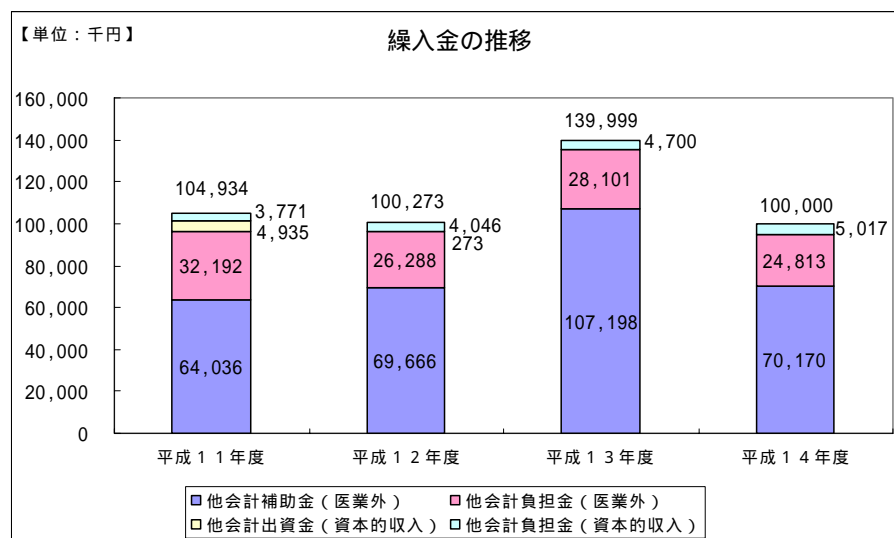
材料費比率は、平成14年度に若干増加しているものの、全体的には減少傾向にある。

さらに、統計指数（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床50床以上100床未満）の27.8%に比べ大きく下回っている。



(4) 繰入金の推移

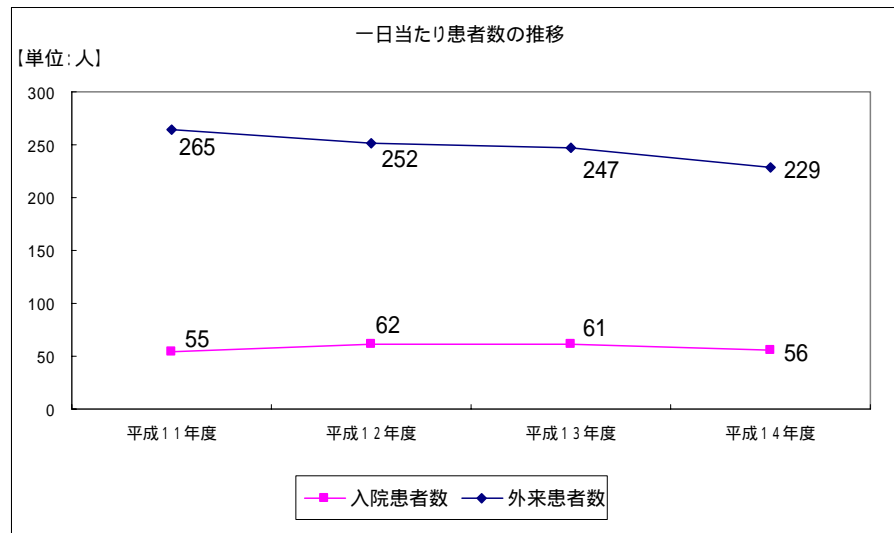
繰入金（資金的収入含む）は、平成13年度に139,999千円と他の年度に比べ、著しく高くなっている。



2. 業務状況の分析

(1) 患者数の推移

一日当たり患者数を入院・外来別にみると、入院患者はほぼ同数で推移しているが、外来患者は減少傾向にある。



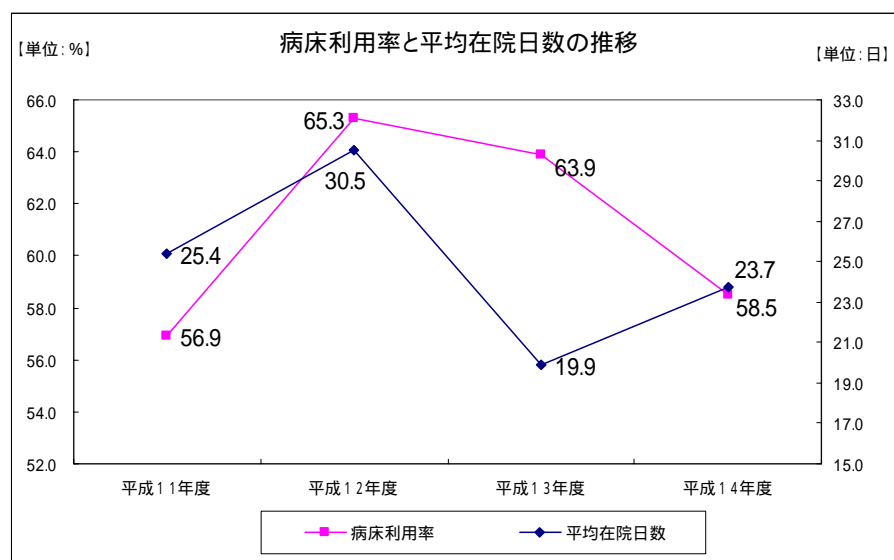
(2) 病床利用率と平均在院日数の推移

病床利用率は、平成12年度以降、減少傾向にある。

さらに、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床50床以上100床未満）の72.7%より下回っている。

平均在院日数は、年度毎にかなりのばらつきがみられる。

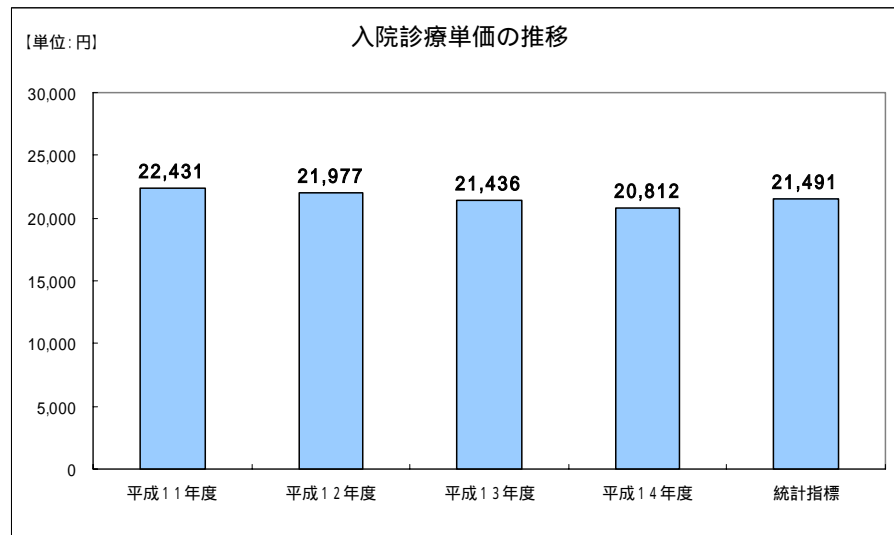
平成14年度は23.7日となっており、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床50床以上100床未満）の33.7日を下回っている。



(3) 入院診療単価の推移

患者一人あたりの入院診療単価は、減少傾向にある。

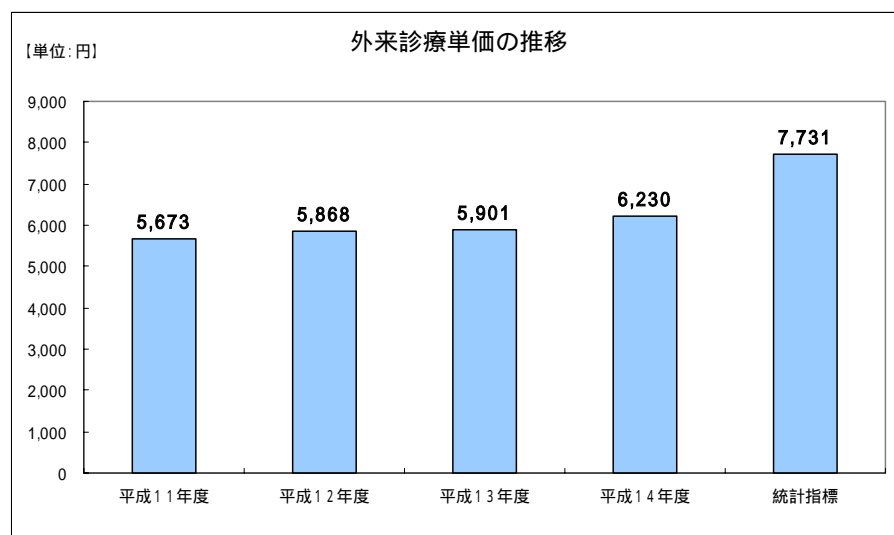
さらに、平成14年度は20,812円となっており、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床50床以上100床未満）の21,491円を下回っている。



(4) 外来診療単価の推移

患者一人あたりの外来診療単価は、若干増加傾向にある。

但し、統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満）の7,731円を大きく下回っている。

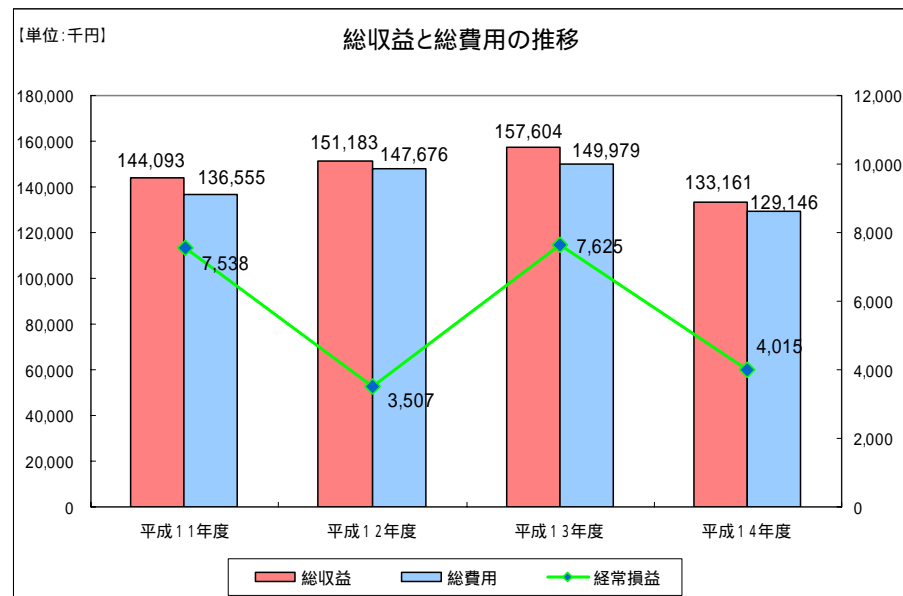


． 田尻町国保診療所

1．収益状況の分析

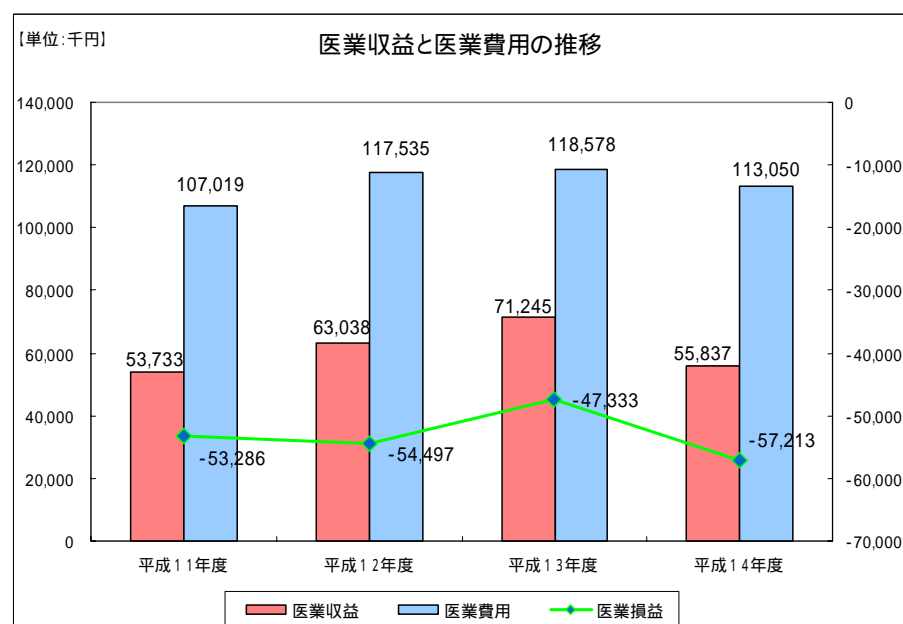
(1) 総収益と総費用の推移

総収益及び総費用ともに平成 13 年度まで増加傾向にあったが、平成 14 年度は減少している。



(2) 医業収益と医業費用の推移

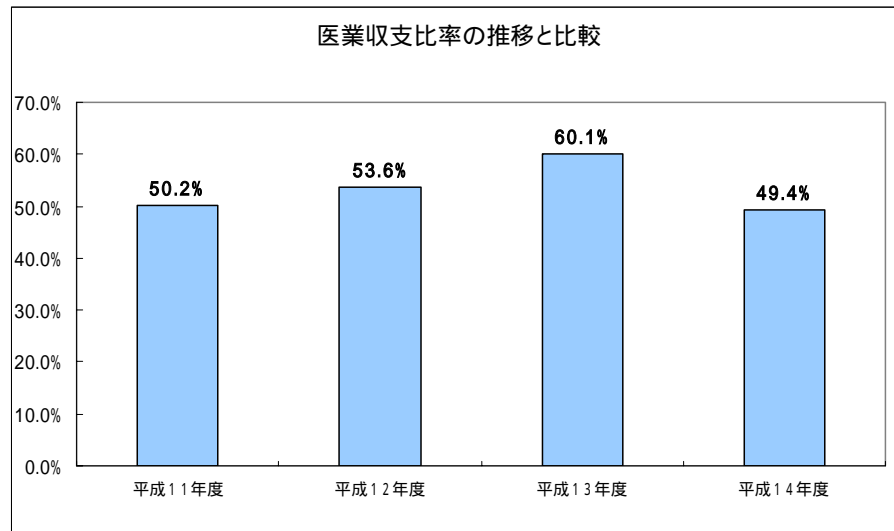
医業収益及び医業費用ともに平成 13 年度まで増加傾向にあったが、平成 14 年度は減少している。



(3) 医業収支比率及び医業収益に対する費用比率の推移と比較

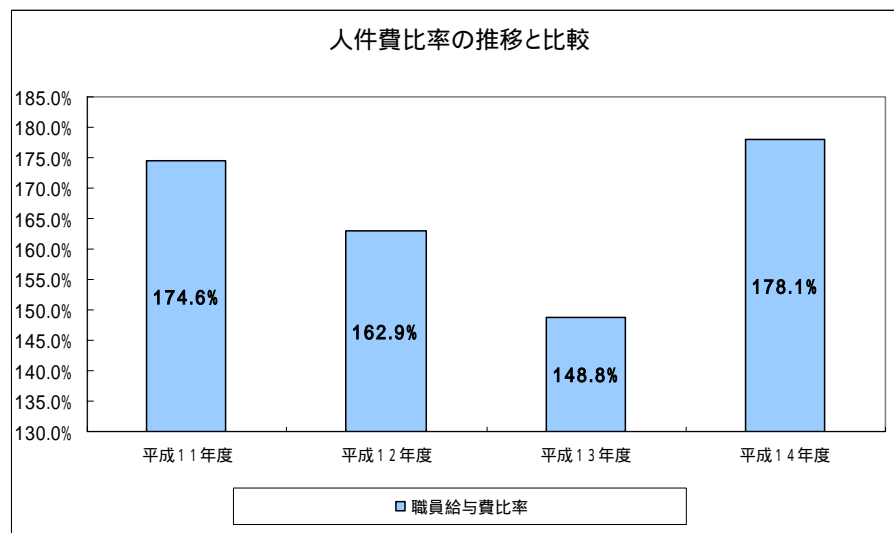
1) 医業収支比率の推移と比較

医業収支比率が約50%前後と、医業費用に対する医業収益比率が極端に低くなっている。



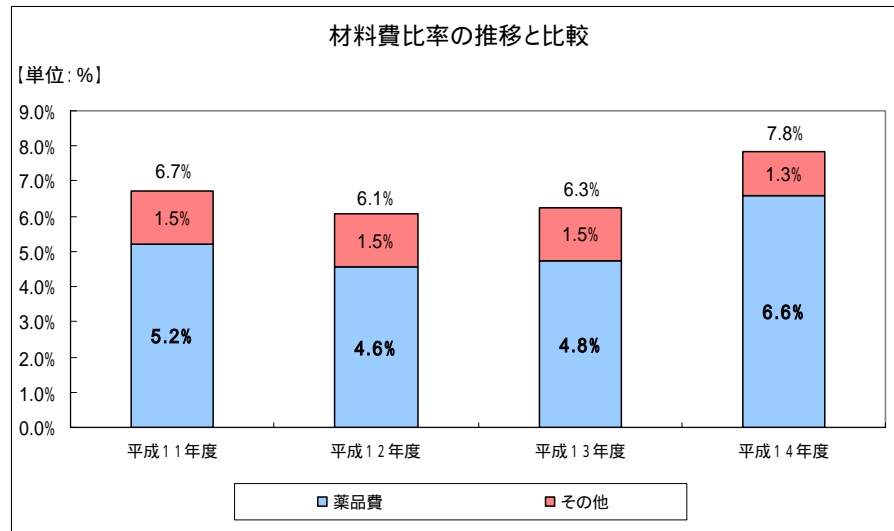
2) 人件費比率の推移と比較

人件費は、平成12年度より良化傾向にあったが、平成14年度は悪化している。さらに人件費率が100%を大きく上回っており、費用の大部分を占めている。



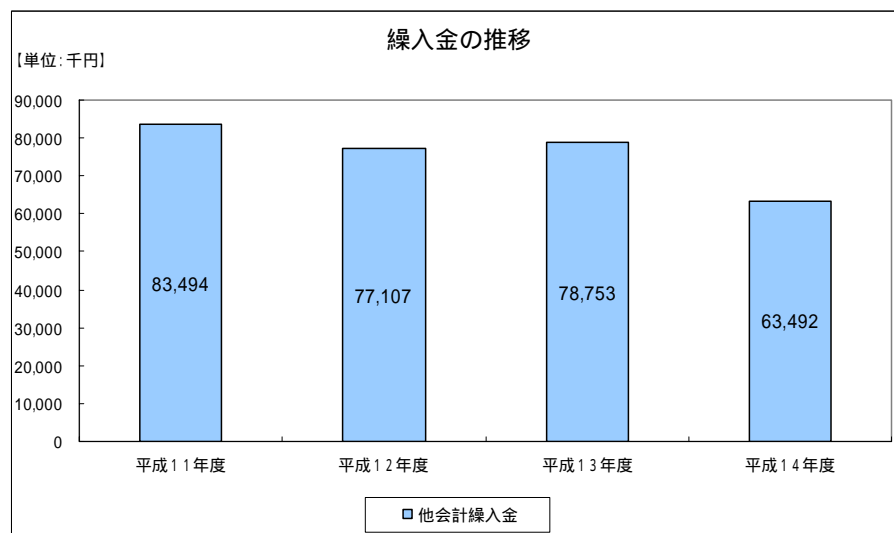
3) 材料費比率の推移と比較

材料費は、平成 12 年度まで減少傾向にあったものの、平成 13 年度より増加傾向にある。



(4) 繰入金の推移

繰入金は、平成 13 年度に若干増加しているものの、平成 14 年度は 63,492 千円となっており、全体的には減少傾向にある。



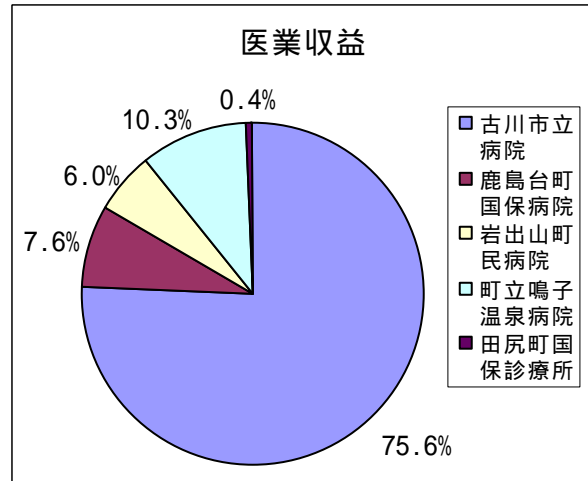
4 病院及び 1 診療所全体の経営状況

注)平成 14 年度実績値を使用

1 . 収益の状況

(1) 医業収益

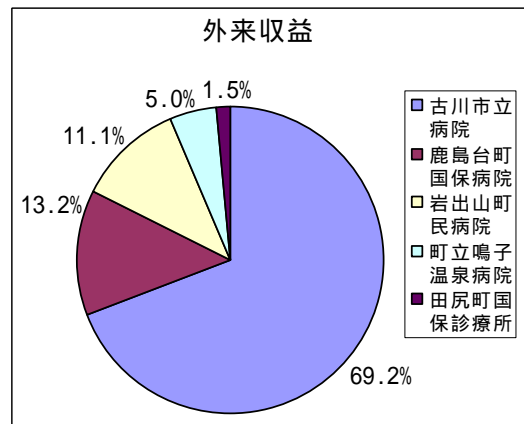
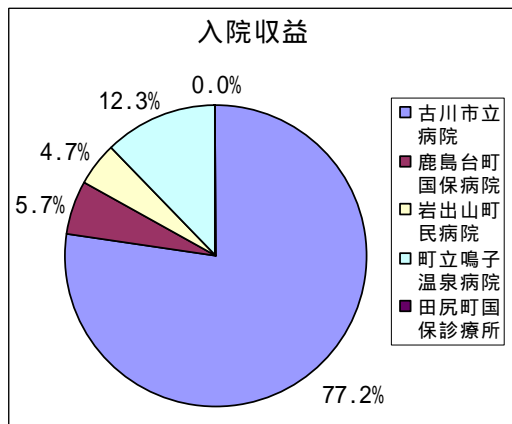
大崎地方における 4 病院及び田尻町国保診療所を 1 つの医療機関としてみた場合、医業収益の構成比は、古川市立病院が 75.6%、町立鳴子温泉病院が 10.3%、鹿島台町国保病院が 7.6%、岩出山町立病院が 6.0%、田尻町国保診療所が 0.4%となっており、全体の約 3/4 を古川市立病院が占めている。



(2) 入院・外来別収益

大崎地方における 4 病院及び田尻町国保診療所を 1 つの医療機関としてみた場合、入院収益の構成比は、古川市立病院が 77.2%、町立鳴子温泉病院が 12.3%、鹿島台町国保病院が 5.7%、岩出山町立病院が 4.7%となっており、古川市立病院と町立鳴子温泉病院で全体の約 90%を占めている。

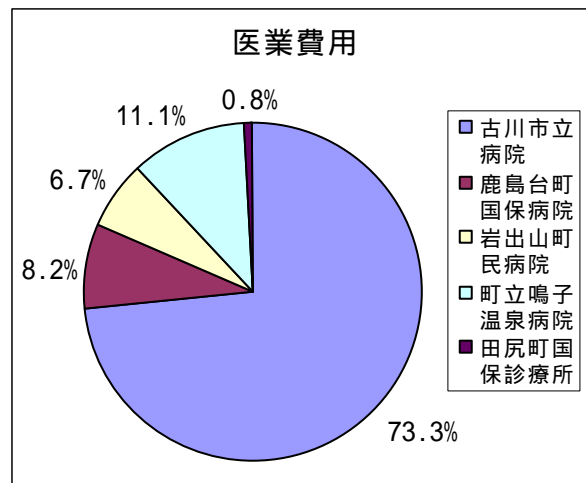
外来収益の構成比は、古川市立病院が 69.2%を占めており、続いて鹿島台町国保病院が 13.2%、岩出山町立病院が 11.1%、町立鳴子温泉病院が 5.0%、田尻町国保診療所が 1.5%となっている。入院収益と比較すると鹿島台町国保病院と岩出山町民病院の外来収益の比率が高い。



2. 費用の状況

(1) 医業費用

大崎地方における4病院及び田尻町国保診療所を1つの医療機関としてみた場合、医業費用の構成比は、古川市立病院が73.3%、町立鳴子温泉病院が11.1%、鹿島台町国保病院が8.2%、岩出山町民病院が6.7%、田尻町国保診療所が0.8%となっており、医業収益と同様に約3/4を古川市立病院が占めている。



3. 繰入金の状況

(1) 実績値

大崎地方における4病院及び田尻町国保診療所を1つの医療機関としてみた場合、繰入金の平成14年度実績値をみると、大崎地方4病院（資本的収入含む）及び田尻町国保診療所の総額で「1,376,309千円」の繰入金が発生している。

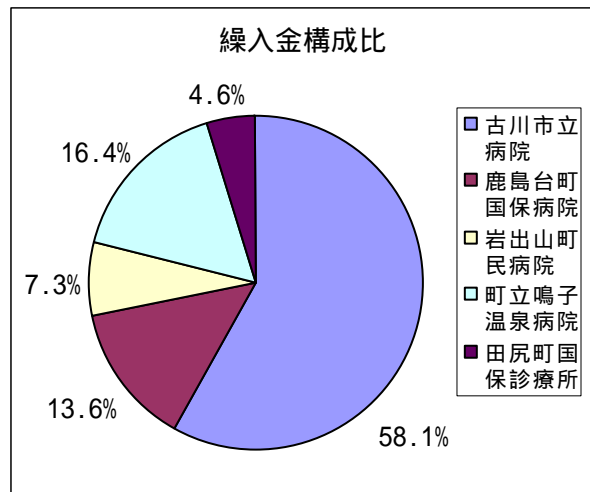
平成14年度実績値

[単位:千円]

	古川市立病院	鹿島台町国保病院	岩出山町民病院	町立鳴子温泉病院	田尻町国保診療所	4病院 + 1診療所合計
他会計負担金(医業)	465,748	36,876	0	50,200	-	552,824
他会計補助金(医業外)	162,442	21,897	70,170	33,701	-	288,210
他会計負担金(医業外)	124,840	114,108	24,813	101,572	-	365,333
他会計繰入金	-	-	-	-	63,492	63,492
他会計出資金(資本的収入)	46,970	-	-	-	-	46,970
他会計負担金(資本的収入)	-	14,073	5,017	40,390	-	59,480
繰入金総額	800,000	186,954	100,000	225,863	63,492	1,376,309
繰入金比率(対総収益)	7.7%	16.4%	11.3%	14.0%	47.7%	9.7%

(2) 構成比

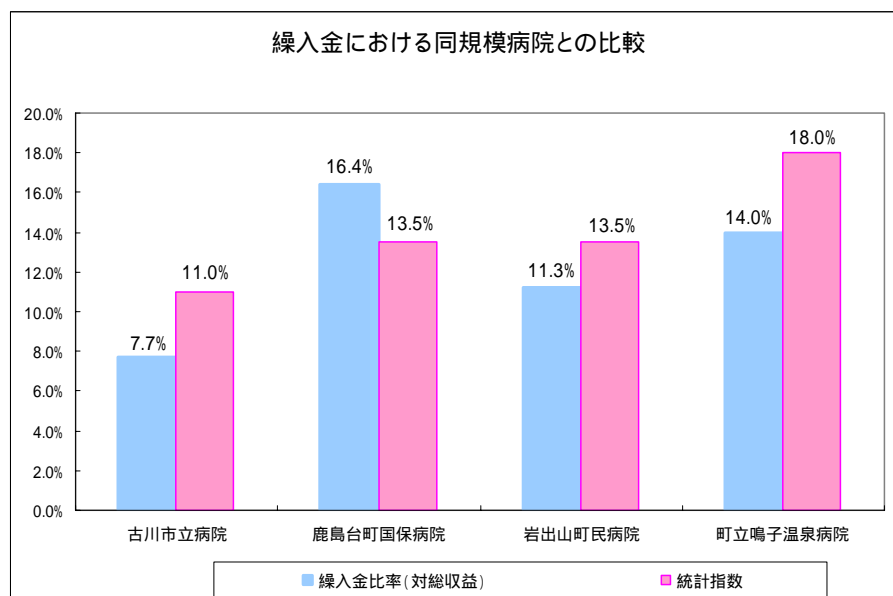
大崎地方における4病院及び田尻町国保診療所を1つの医療機関としてみた場合、繰入金総額「1,376,309千円」の構成比は、古川市立病院への繰入が58.1%を占めており、続いて町立鳴子温泉病院が16.4%、鹿島台町国保病院が13.6%、岩出山町民病院が7.3%、田尻町国保診療所が4.6%となっている。



(3) 他会計繰入金対総収益比率(田尻町国保診療所は除く)

大崎地方4病院における繰入金の状況を比較すると、対総収益比率が一番低いのは、古川市立病院の7.7%となっている。

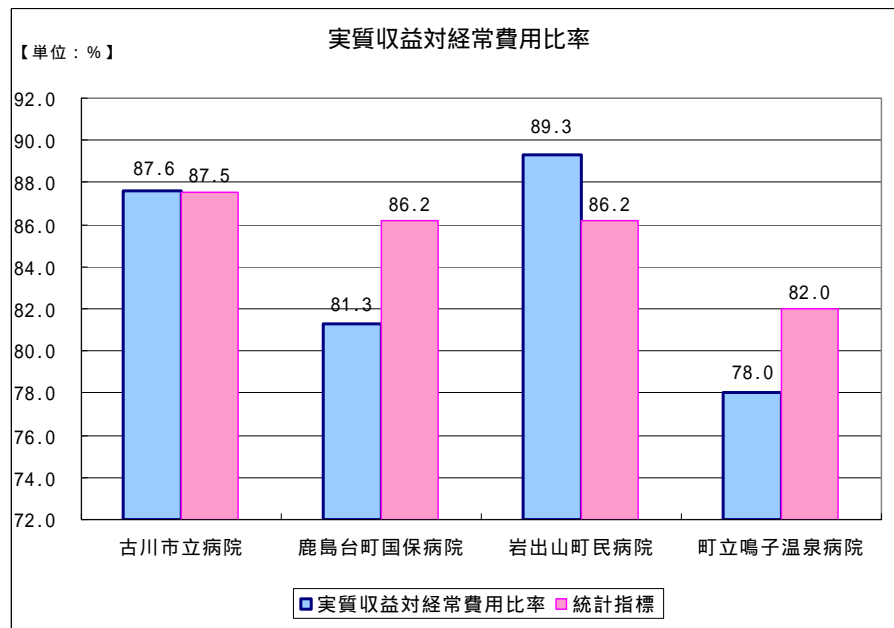
反対に一番高いのは鹿島台町国保病院の16.4%となっており、さらに統計指標(平成13年度地方公営企業年鑑：一般病床100床以上200床未満)の13.5%を上回っている。



4. 実質収益対経常費用比率（田尻町国保診療所は除く）

大崎地方4病院における実質収益対経常費用比率を比較すると最も高いのは、岩出山町民病院の89.3%となっており、続いて古川市立病院が87.6%となっている。さらに統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：病床規模別）を上回っている。

鹿島台町国保病院及び町立鳴子温泉病院については、それぞれ81.3%、78.0%と統計指標（平成13年度地方公営企業年鑑：病床規模別）を大きく下回っている。

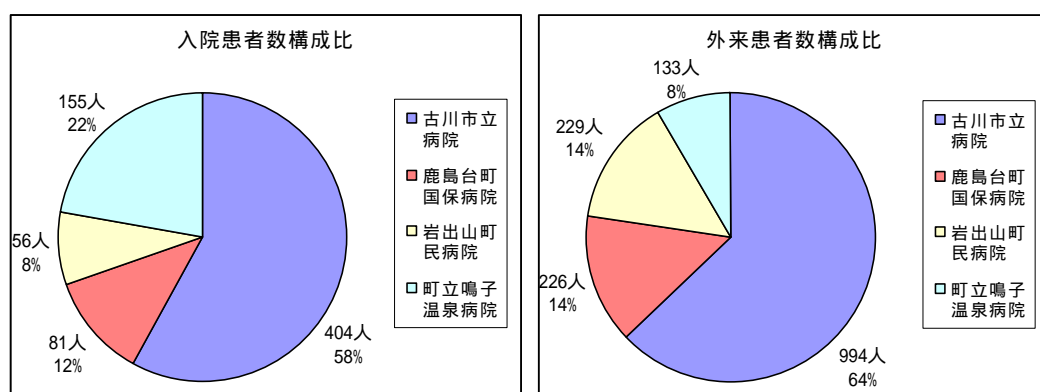


4. 4病院及び1診療所全体の運営状況

1. 患者数の状況

大崎地方における4病院及び田尻町国保診療所を1つの医療機関としてみた場合、入院患者数の構成比は、696人中、古川市立病院が58%の404人となっており、約1/2を占めている。

外来患者も同様に古川市立病院が一番高く、1582人中64%の994人となっている。

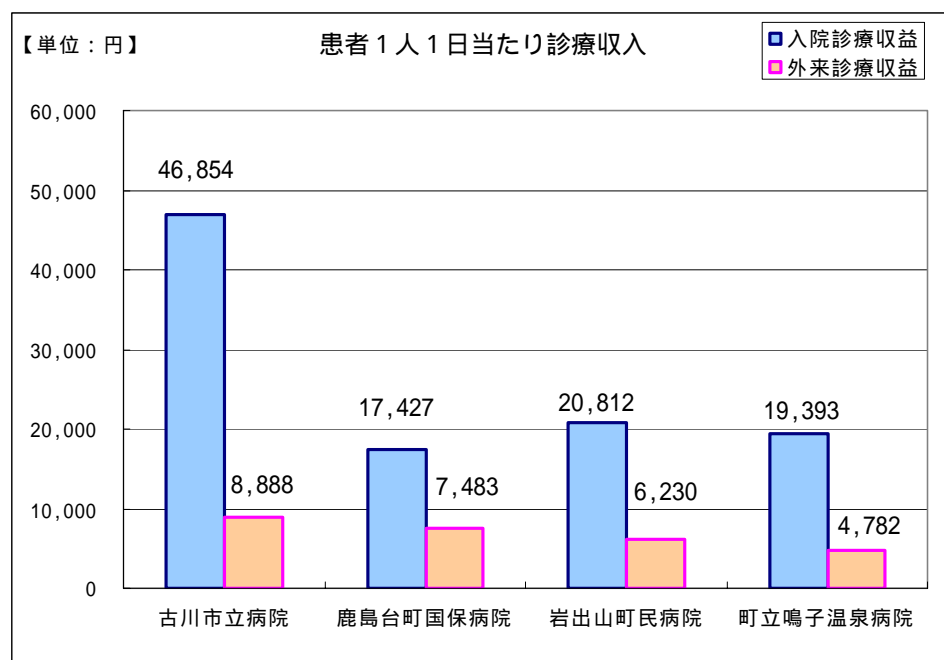


2. 収益の状況

(1) 診療単価

大崎地方4病院について、患者1人1日当たり診療収入を比較すると、入院診療単価については、古川市立病院が46,854円と他の病院と比べ著しく高く、続いて岩出山町民病院が20,812円、町立鳴子温泉病院が19,393円、鹿島台町国保病院が17,427円となっている。

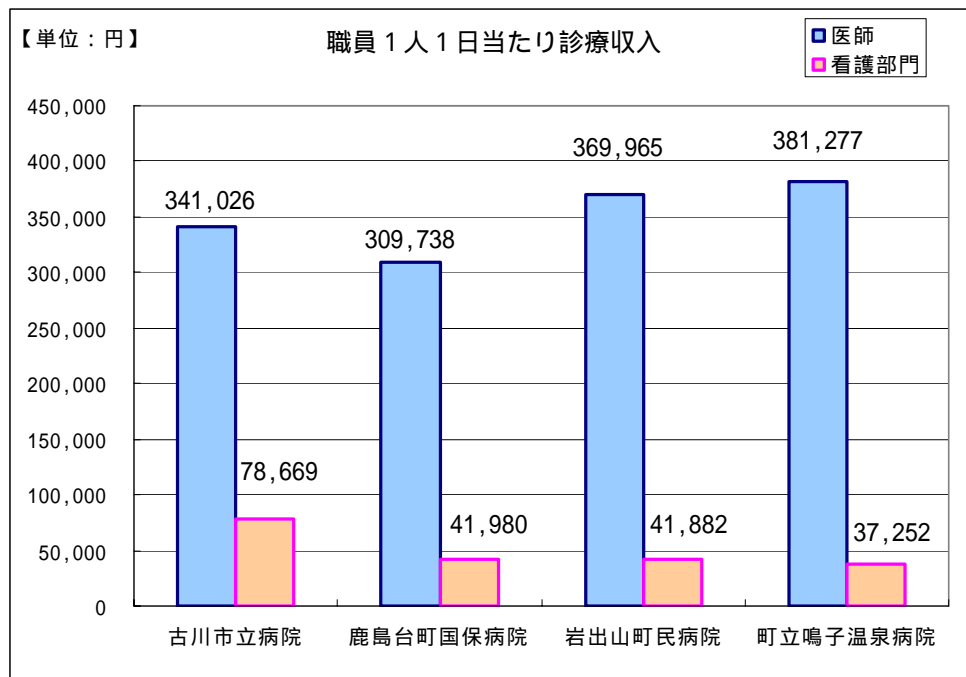
外来診療単価については、入院診療単価と同様に古川市立病院が8,888円と一番高く、続いて鹿島台町国保病院7,483円、岩出山町民病院が6,230円、町立鳴子温泉病院が4,782円となっている。



(2) 職員 1 人 1 日当たり診療収入

大崎地方 4 病院について、職員 1 人 1 日当たり診療収入を比較すると、医師については、町立鳴子温泉病院が 381,277 円と一番高く、続いて岩出山町民病院が 369,965 円、古川市立病院が 341,026 円、鹿島台町国保病院が 309,738 円となっている。

看護部門については、古川市立病院が 78,669 円と一番高く、続いて鹿島台町国保病院が 41,980 円、岩出山町民病院が 41,882 円、町立鳴子温泉病院が 37,252 円となっている。

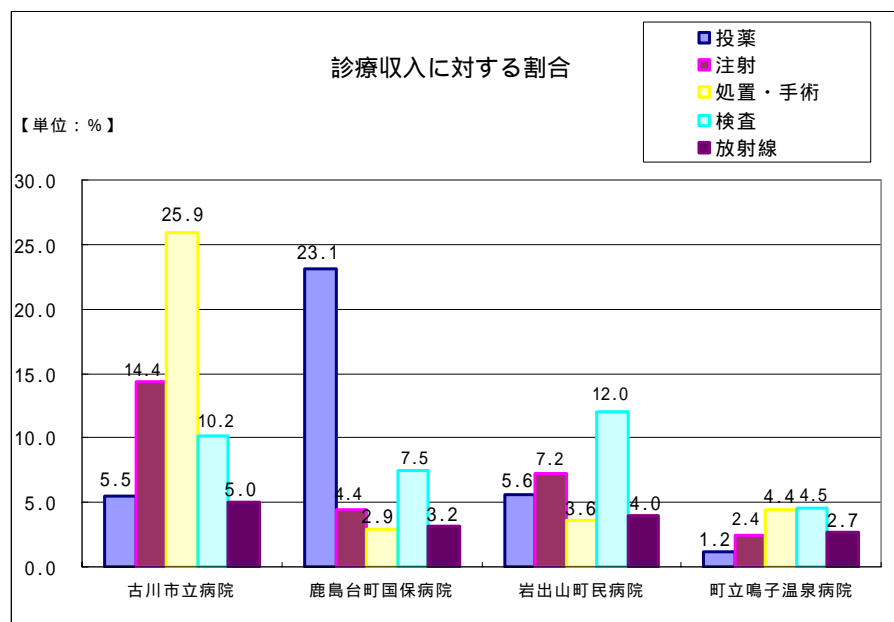


(3) 項目別収入構成比

大崎地方4病院における診療収入を項目別に比較すると、投薬については、鹿島台町国保病院が23.1%となっており、他の病院と比べて著しく高いが、これは院内処方によるものである。

注射、処置・手術、放射線については、古川市立病院が一番高く、それぞれ14.4%、25.9%、5.0%となっている。特に処置・手術における収入割合は、他の病院と比べて著しく高い。

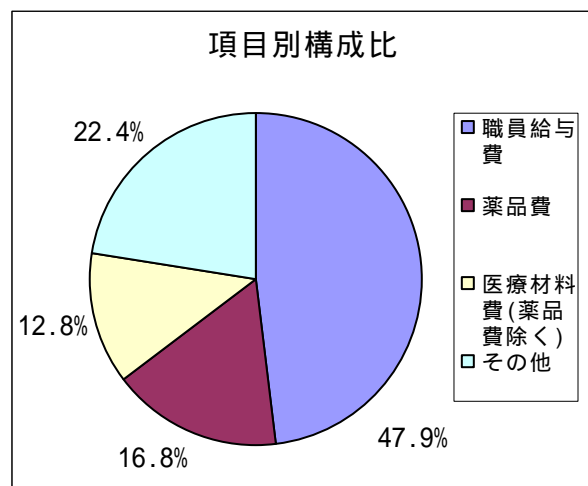
検査については、岩出山町民病院が12.0%と一番高く、続いて古川市立病院が10.2%となっている。



2. 費用の状況

(1) 医業費用構成比

大崎地方における4病院及び田尻町国保診療所を1つの医療機関としてみた場合、医業費用の項目別構成比は、職員給与費が47.9%を占めており、続いて薬品費16.8%、医療材料費(薬品費を除く)が12.8%、その他が22.4%となっており、職員給与費、医療材料費、薬品費の3費目で約80%を占めている。

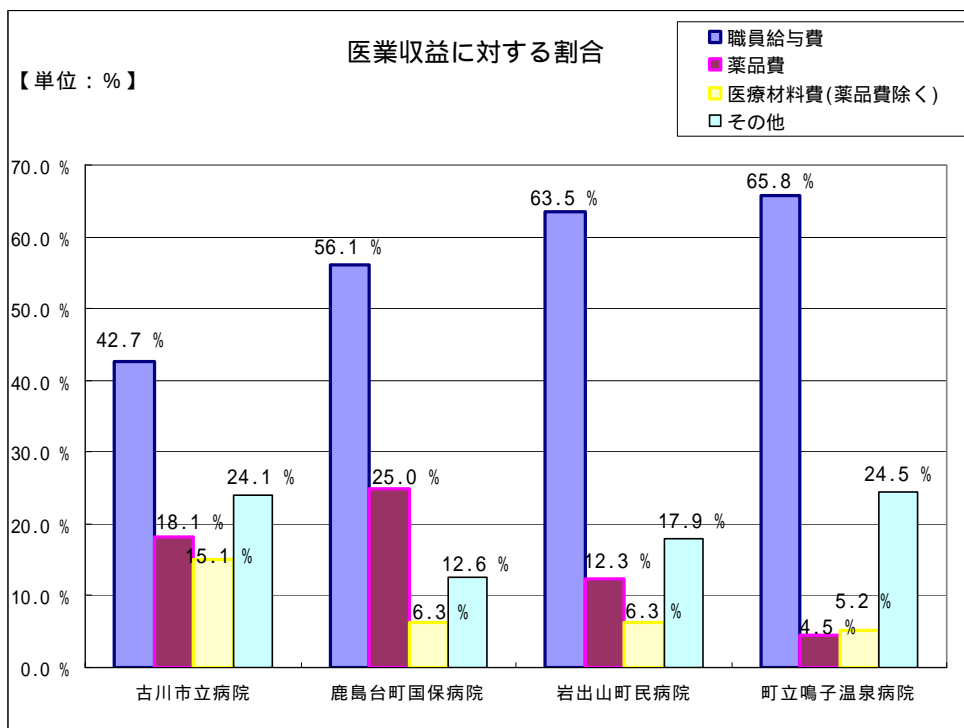


(2) 項目別構成比 (田尻町国保診療所は除く)

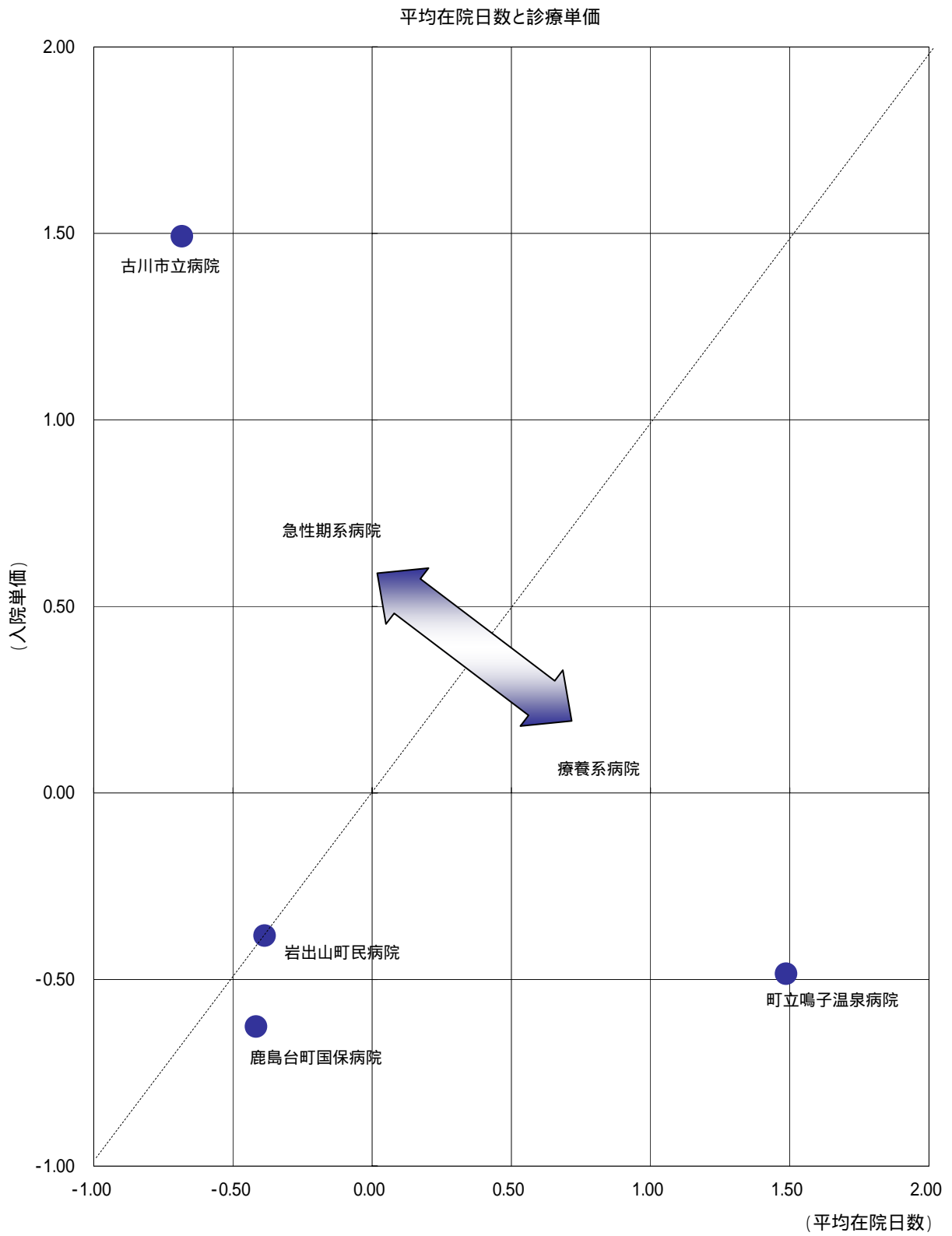
大崎地方における4病院及び田尻町国保診療所の費用を項目別に比較すると、職員給与費については、町立鳴子温泉病院が65.8%と一番高く、続いて岩出山町民病院が63.5%、鹿島台町国保病院が56.1%であり、唯一50%を下回った古川市立病院の42.7%が一番低くなっている。

薬品費については、鹿島台町国保病院が25.0%と一番高く、続いて古川市立病院が18.1%、岩出山町民病院が12.3%となっており、町立鳴子温泉病院が4.5%と著しく低くなっている。

医療材料費については、古川市立病院が15.1%と一番高く、続いて鹿島台町国保病院、岩出山町民病院が6.3%と薬品費を下回っているのに対し、町立鳴子温泉病院は4.5%と薬品費を上回っている。

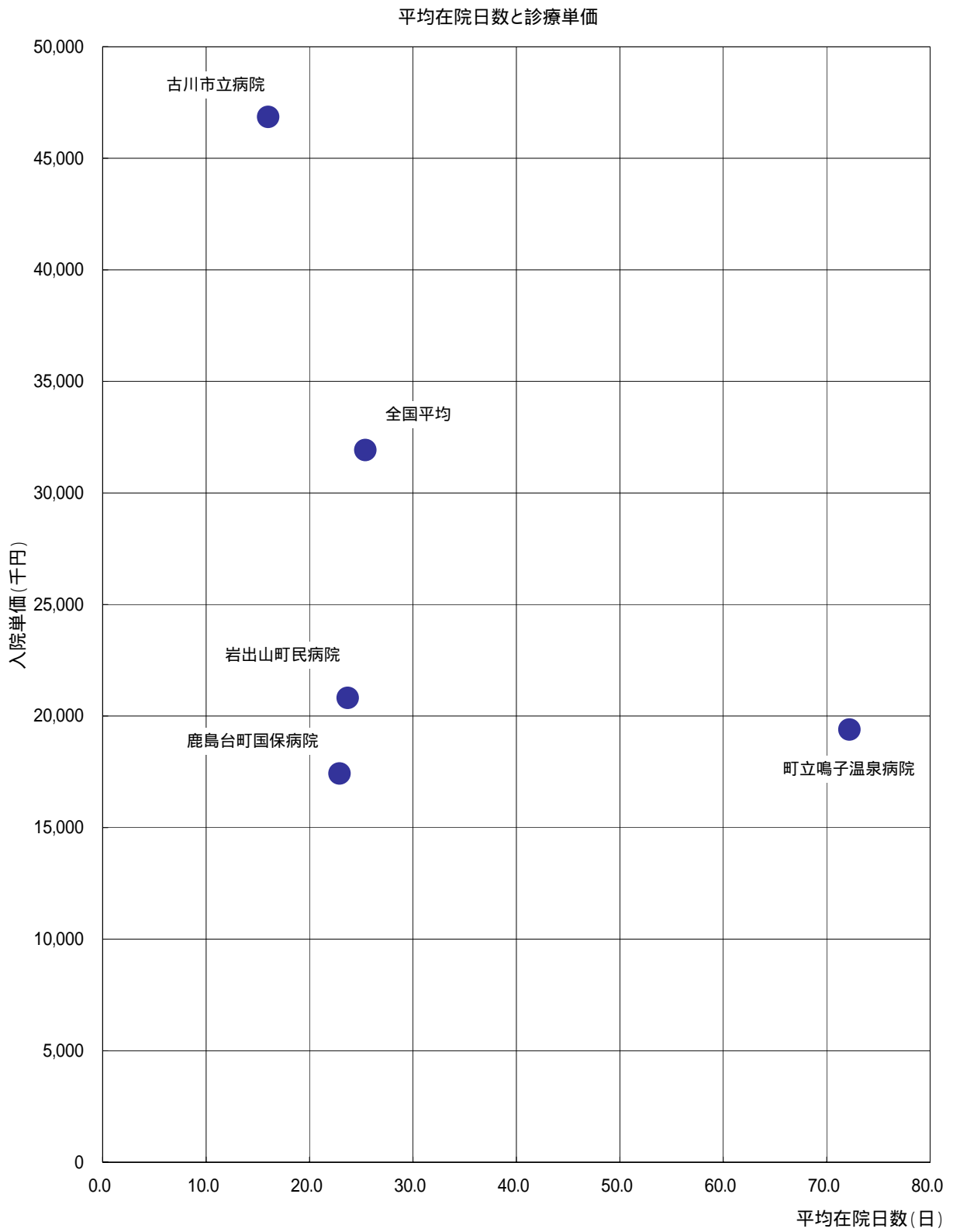


4 病院相対値比較（機能比較）



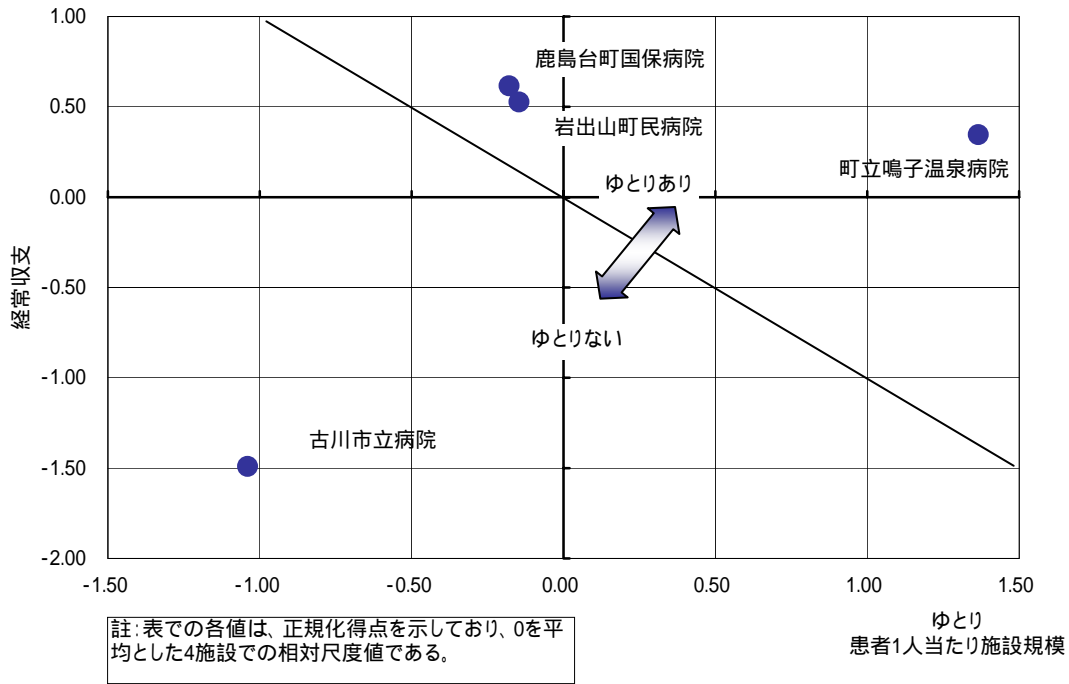
註: 表での各値は、正規化得点を示しており、0を平均とした4施設での相対尺度値である。

4 病院相対値比較（機能比較）

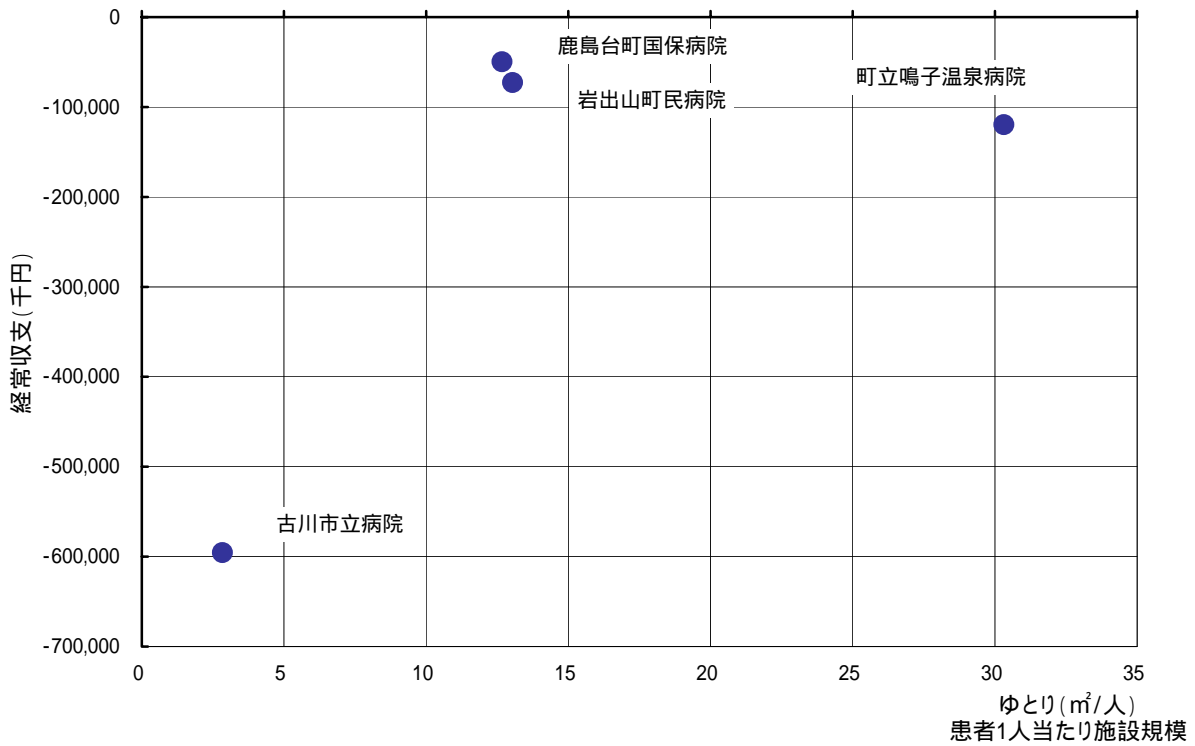


*全国平均は、公営企業年鑑全国平均値に

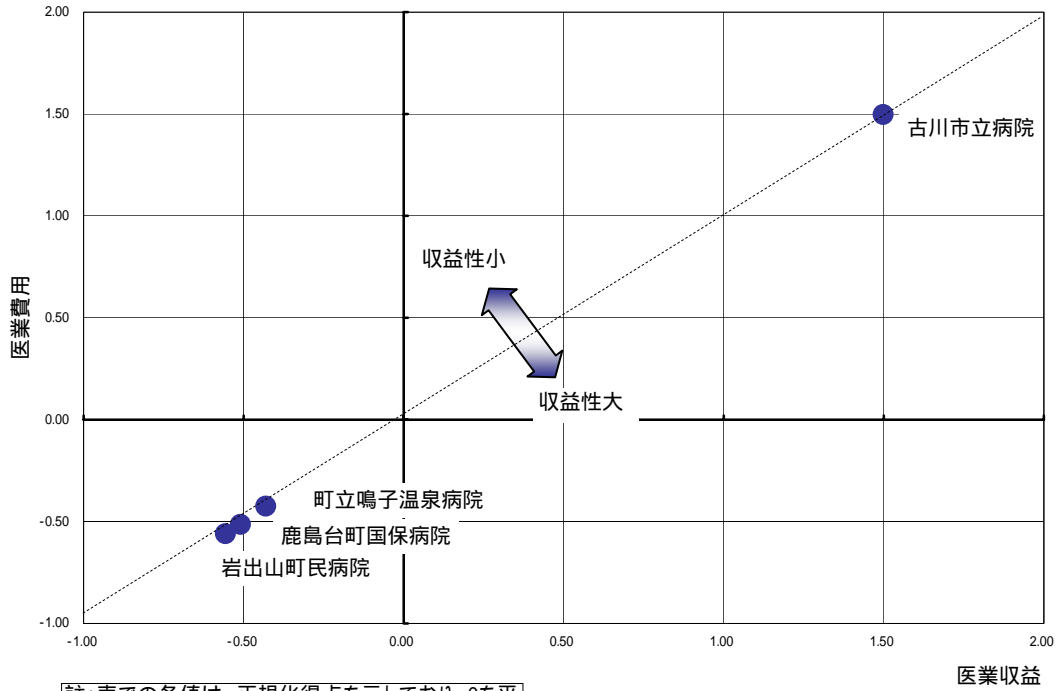
患者1人当たり規模と経常収支



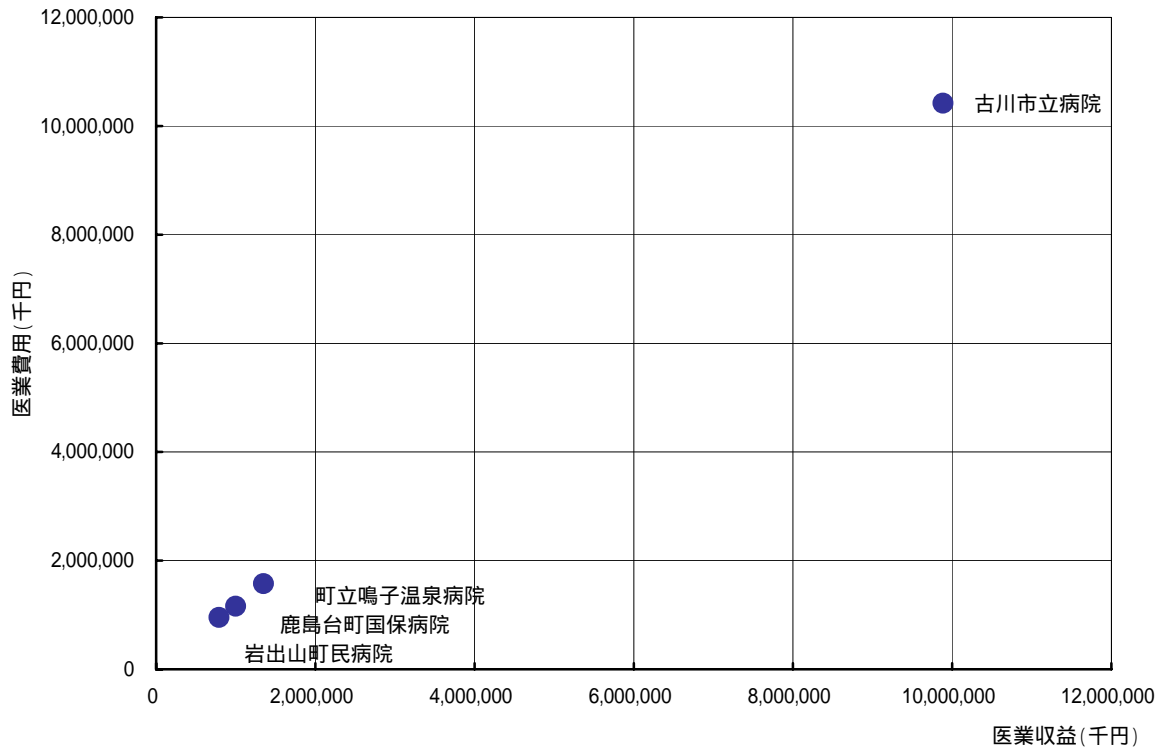
患者1人当たり規模と経常収支



医業費用と医業収益



医業費用と医業収益



別紙 3

次回会議の開催について

次回会議の開催については、下記のとおり提案する。

記

1. 開催日時

平成15年10月11日(土)
午後3時から

2. 開催場所

宮城県古川合同庁舎1階大会議室